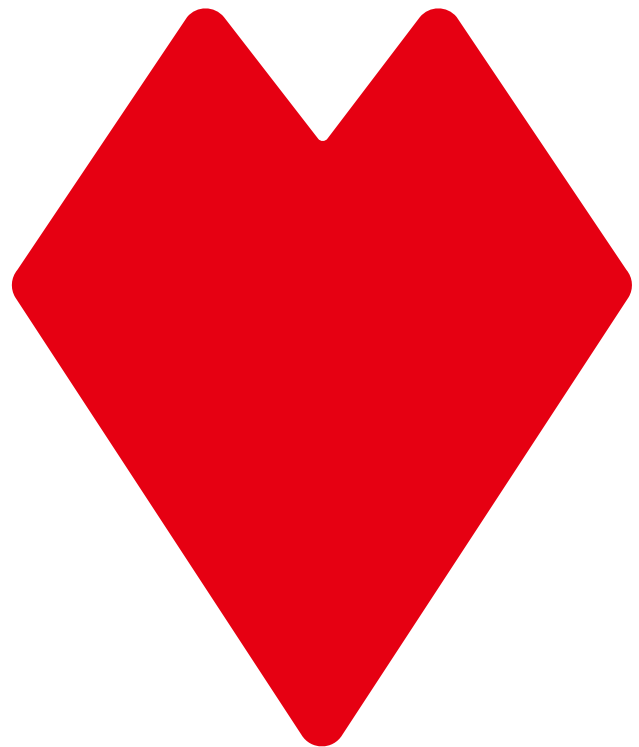


LOTTE SUSTAINABILITY REPORT 2019



ロッテの歴史は、 ロッテノベーションの歴史です。

ロッテは、70年以上前の創業時から、
お客様や時代のニーズに応えるために、
大胆なチャレンジに基づく、新価値の創造を行ってきました。
そしていま、持続可能な社会の実現に向け、
私たちが目指すものを「ESG 中期目標」として掲げました。
「ロッテノベーション」の実現力と精神で、
直面する一つ一つの課題に挑んでいきます。





Our Philosophy

コーポレートメッセージ

お口の恋人

LOTTE

ロッテグループ理念体系

LOTTE Group Mission

私たちはみなさまから愛され、
信頼される、よりよい製品や
サービスを提供し、
世界中の人々の豊かな
暮らしに貢献します。

LOTTE Values

- ユーザー オリエンテッド
- オリジナリティ
- クオリティ

LOTTE Group Way

- 📦 安全・安心 📄 公明正大
- 🗣️ コミュニケーション
- 👤 従業員 🌱 環境
- 🤝 社会貢献
- 🌐 コミュニティ

ロッテの社名は、ドイツの文豪ゲーテが著した名作「若きウェルテルの悩み」の中に登場するヒロイン「シャルロッテ」に由来します。「お口の恋人」というメッセージには、「永遠の恋人」として知られる彼女のように、世界中の人々から愛される会社でありたいという願いが込められています。この想いを言葉にしたものがロッテグループミッションであり、これを実現するためにロッテが大切にしてきた3つの価値がロッテバリューです。これらを企業理念とし、我々の行動規範であるロッテグループウェイを合わせて理念体系としています。サステナビリティをはじめとした私たちのあらゆる事業活動の基本となっています。

CONTENTS

LOTTE SUSTAINABILITY REPORT 2019

02 社長メッセージ

04 ロッテノーションの歩み

06 ロッテを知る

POINT

グループの全体像

私たちが大切にしている考え方や創業からの歩みと、現在の姿について、ご紹介します。

08 ロッテの考えるマテリアリティ

10 ロッテのマテリアリティとESG中期目標

12 1:食の安全・安心

13 2:食と健康

14 3:環境

15 4:持続可能な調達

16 5:従業員の能力発揮

17 ステークホルダーエンゲージメント

18 有識者ダイアログ

POINT

サステナビリティに対する考え方

マテリアリティやESG中期目標について、関連するSDGsを交えてご説明します。

21 2018年度 活動報告

22 組織統治

23 人権

24 労働慣行

30 環境

36 公正な事業慣行

40 消費者課題

46 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

49 サステナビリティ活動の推進

POINT

2018年度 活動報告

ISO26000の7つの中核主題に基づいて、2018年度の取り組みをご説明します。

50 ロッテのサステナビリティ取り組み体系

52 CO₂排出量の第三者保証

53 会社情報

報告内容について

編集方針 「株式会社ロッテ サステナビリティレポート 2019」は、すべてのステークホルダーの皆様にサステナビリティへの考え方や取り組みをご理解いただくことを目的に、2018年度の活動を中心に掲載しています。また、社会的責任に関する国際ガイダンス規格であるISO26000を参考に編集しています。

対象期間 2018年度(2018年4月～2019年3月)

(株)千葉ロッテマリーンズおよび海外の子会社については、決算期に合わせ2018年1月～12月を対象としています。また、一部の報告内容には過去や直近の情報を含んでいます。(株)ロッテの過去情報は、2018年4月に合併した3社((株)ロッテ、ロッテ商事(株)、(株)ロッテアイス)の情報を合算して報告しています。

対象範囲 原則として、(株)ロッテおよび連結子会社(2019年3月31日現在)をグループとして対象にしています。ただし、情報を十分に把握できていない場合は、報告の都度、対象範囲を明示しています。

報告年月 2019年8月



代表取締役
社長執行役員
牛 腸 栄一

サステナブルな地球環境と 社会の実現に向けて 「ロETTEノベーション」で取り組んでまいります

当社のミッションは「私たちはみなさまから愛され、信頼される、よりよい製品やサービスを提供し、世界中の人々の豊かにくらしに貢献します。」です。これは戦後の品不足で粗悪品が出回っていた時代に、より良い製品を作ることこそが、人々と社会を豊かにすることだという創業者の強い想いそのものです。

この想いを引き継ぎ、実現するために私たちは3つの価値ロETTEバリュー「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」を大切に、常に事業活動の中心に据えてきました。それによって、誰もやったことのないやり方で、新しい価値を生み出し、お客様や社会にご提案し続けるという、チャレンジングで、イノベティブな精神が根付いています。一例を挙げると、1997年発売の「キシリトールガム」は、お菓子が虫歯の原因になるというそれまでの常識を覆し、チューインガムで歯を丈夫で健康に保つという新しい価値を提供し、さらに「虫歯のない社会へ」という世の中の課題解決にも貢献してまいりました。すなわち当社が取り組んできたのは、社会課題の解決と同時に経済価値を創出するCSV(共通価値の創造)の考え方です。

一方で現代社会は気候変動や資源の枯渇、児童労働や長時間労働など、深刻な課題に直面しています。私たちの事業ではカカオ豆やパーム油、紙など、多くの原材料を農産物に依存しており、生態系の変化は事業存続のリスクに直結しま

す。また、多様な人材がいそいそと能力を発揮できる職場環境を整えられなければ、新たな価値を創造できなくなり、持続的な成長は難しくなります。

したがって、事業活動を通じて地球環境と社会のサステナビリティに貢献することが、今後の私たちにとって重要であると考えます。この方針をより明確にするため、2018年11月にESG中期目標を設定しました。5つのテーマ(食の安全・安心、食と健康、環境、持続可能な調達、従業員の能力発揮)において、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)など外部のイニシアチブに貢献できるように、意欲的な目標を掲げました。

例えば、食品企業として正面から取り組むべき「食品ロスの削減」については、SDGsが目指す2030年までに半減させるという目標を2年前倒し、2028年までに達成する目標としました。このような意欲的な目標は、従来の延長線上のやり方では達成が難しく、ここでもチャレンジングでイノベティブな取り組みが期待されます。

このようにロETTE独自の精神がさらに強まり、新しい価値を創造し続けて、現代社会の課題解決に取り組んでいく、この姿勢を「ロETTEノベーション」と名付けました。これからも私たちロETTEは、ステークホルダーの皆様と共に、サステナブルな地球環境と社会の実現に向けて「ロETTEノベーション」で取り組んでまいりますので、どうぞご期待ください。

代表取締役
社長執行役員

牛腸 栄一

ロッテノベーションの歩み

私たち(株)ロッテは、1948年、東京でチューインガムの製造販売から始まり、2018年に創業70周年を迎えました。創業以来大切にしてきた3つの価値(ロッテバリュー)である「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」のもと、常に新たな価値の創造「ロッテノベーション」にチャレンジしてきました。

1948

創業

お口の恋人

LOTTE

創業者 重光武雄は、戦後の品不足で粗悪品が出回っていた当時、より良い製品を作り届けたいという想いで創業しました。この想いが、企業理念として受け継がれています。また、社名の「ロッテ」には、ゲーテが著した「若きウェルテルの悩み」に登場するヒロイン「シャルロッテ」のように、「一人でも多くの人々に愛される会社になりたい。愛される製品を作っていきたい。」という想いが込められています。



1957

「グリーンガム」発売



1964

チョコレートの製造販売開始

当時のチョコレートは、アメリカ流の軽い味わいが主流でした。そこで、スイスから技術者を招聘して誕生したのが、コクがありなめらかな「ガーナミルクチョコレート」です。口どけを追求したマイクログラインド製法など、独自技術で進化を続けながら、「母の日ガーナ」などの独自プロモーションにより売上を伸ばし、国内で売上 No.1* のチョコレートブランドに成長しました。

* 出典：インテージ社2018年度 SRI データ



1958

「ロッテ歌のアルバム」放送開始

1950年代後半から民放テレビの放送が本格化しました。当時、新しいメディアであったテレビに、いち早く着目し、歌謡番組「ロッテ歌のアルバム」の一社提供スポンサーになりました。この番組で「お口の恋人」というコーポレートメッセージが広く普及しました。



事業の歩み

1948 杉並区荻窪で(株)ロッテ創業
1950 社屋と工場を新宿区百人町に移転

1958 ロッテ歌のアルバム放送開始
1964 チョコレートの製造販売開始

製品の歩み

1957 グリーンガム発売

1964 ガーナミルクチョコレート発売

1984

「コアラのマーチ」発売



1981

「雪見だいふく」発売



1972

アイスクリームの製造販売開始

当時のアイスクリームには乳脂肪が多く使われていました。そこで、植物性脂肪を使い、日本人の味覚に合ったさっぱりとして爽やかな「イタリアーノ」を発売しました。その後も、ロッテならではの発想と技術で、「雪見だいふく」「爽」「クーリッシュ」などを開発してきました。2002年のロッテスノー(株)のグループ入りを経て、国内でアイス売上No.1*の企業に成長しました。

* 出典：インテージ社2018年度SRIデータ



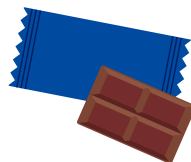
1983

「チョコパイ」発売



現在

ロッテノベーション



これまで培ってきた技術や知見、そして、創業の精神である3つの価値(ロッテバリュー)をもとに、人々の生活を豊かにする新たな価値の創造「ロッテノベーション」にチャレンジし続けています。

例えば、2015年に発売した「乳酸菌ショコラ」は、乳酸菌をチョコレートで包み、生きたまま安定的に保つロッテ独自の製法により、乳酸菌を「生きたままいつでもどこでも摂れる」という新しい価値を社会に提供することができました。さらに、2017年に発売した「歯につきにくいガム粒く記憶力を維持するタイプ>」「歯につきにくいガム板く記憶力を維持するタイプ>」は中高年の方の記憶力を維持すると報告されている「イチョウ葉抽出物」を配合した機能性表示食品で、高齢化社会の悩みに応える製品です。

1997

「キシリトールガム」発売



1970年代、フィンランドで歯の健康に役立てられていたキシリトールに着目し、研究を開始しました。1997年にキシリトールが食品添加物として認可されると、いち早く「キシリトールガム」を発売しました。チューインガムで歯を丈夫で健康に保つという新たな価値を提供し、「虫歯のない社会へ」という社会課題の解決に貢献してきました。さらに、2015年には歯ぐきを健康に保つ「キシリトール オーラテクトガム」を発売しました。現在も国内で売上No.1*のチューインガムブランドです。

* 出典：インテージ社2018年度SRIデータ

2003

「クーリッシュ」発売



1970 キャンディの製造販売開始
1971 ロッテオリオンズ球団誕生
(現千葉ロッテマリーンズ)
1972 アイスクリームの製造販売開始
1976 ビスケットの製造販売開始
1978 現在の本社ビル(新宿区西新宿)に移転
1988 タイロッテ設立

1993 ロッテインドネシア設立
1996 ロッテベトナム設立
2002 ロッテスノー(株)設立
2008 (株)メリーチョコレートカンパニーが
グループ入り

2010 ロッテウェデルがグループ入り
2018 創業70周年

1974 クランキーチョコレート発売
1979 パイの実発売
1981 雪見だいふく発売
1983 チョコパイ発売
1984 コアラのマーチ発売

1994 トッポ発売
1997 キシリトールガム発売
1999 爽発売
2003 クーリッシュ発売

2015 乳酸菌ショコラ発売
2017 歯につきにくいガム粒く記憶力を維持するタイプ>、歯につきにくいガム板く記憶力を維持するタイプ>発売

ロッテを知る

グループ

- (株) ロッテ

LOTTE

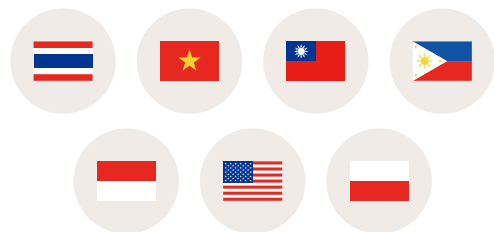
国内子会社

- (株) 千葉ロッテマリーンズ
- (株) メリーチョコレートカンパニー



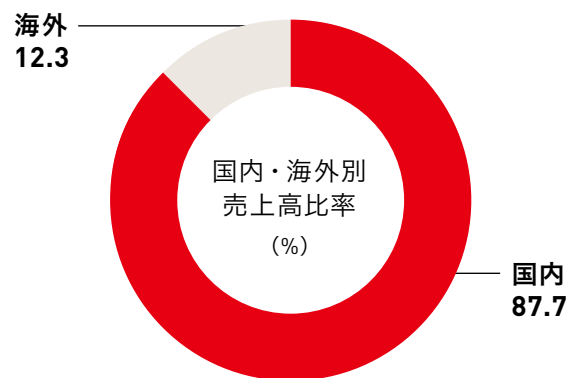
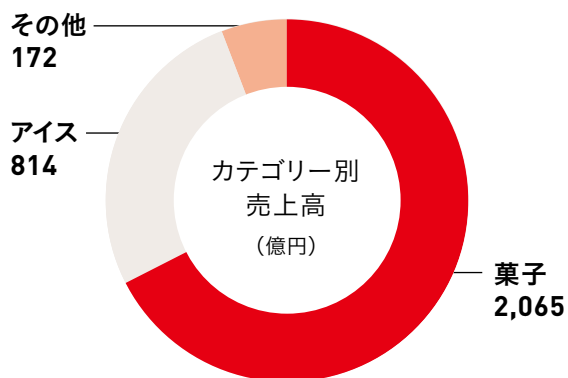
海外進出国および地域

- タイ • ベトナム • 台湾 • フィリピン
- インドネシア • アメリカ合衆国 • ポーランド



2018年度 業績

売上高 **3,051** 億円



国内チューインガムシェア

No.1* メーカー



国内チューインガム

キシリトール

No.1* ブランド



国内チョコレート

ガーナ

No.1* ブランド



国内アイスシェア

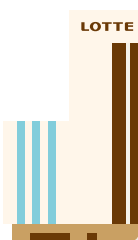
No.1* メーカー



従業員数

単体 **2,361** 名
連結 **6,396** 名

(2019年3月31日現在)



工場

11 か所

(中間製品の工場を除く)

国内7か所

- (株)ロッテ：4か所
- (株)メリーチョコレート
カムパニー：3か所

海外4か所

- タイ
- ベトナム
- インドネシア
- ポーランド

上記の工場すべてで、
世界標準の食品安全認証取得済

**GFSI 承認スキーム
(FSSC22000 / BRC)**



* 出典：インテージ社2018年度SRIデータ

健康経営



(認定期間：2019年2月21日～2020年3月31日)

ロッテの考えるマテリア

(株)ロッテは、創業以来一貫して、「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」という3つのロッテバリューをすべての企業活動の基本としています。これらを掲げた企業理念のもと、お客様をはじめ、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。

例えば、1997年発売の「キシリトールガム」は、歯を丈

夫で健康に保つという新しい価値を生み出し、社会に貢献してきました。近年では、持続可能な社会の実現に一層貢献するため、ISO26000を活用した取り組みを推進しています。さらに、社会に及ぼす影響や事業活動における重要性をもとに、取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を抽出・整理しました。今後はそれぞれについて具体的な目標を定め、実現に向けて取り組んでいきます。

▶ マテリアリティとESG中期目標の策定プロセス

STEP 1

課題の把握

社会的責任に関する国際ガイダンス規格であるISO26000をもとに課題をリストアップ

STEP 2

マテリアリティの抽出

リストをもとに、主要なテーマごとにグループディスカッションを実施し、事業活動における重要性を討議

STEP 3

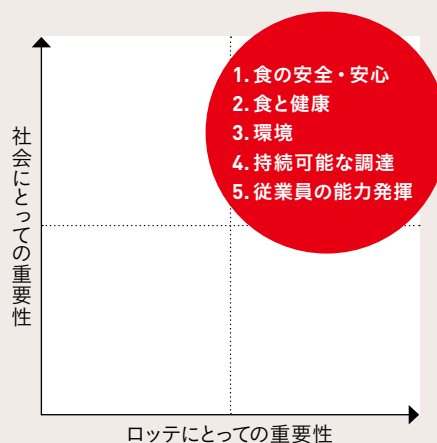
有識者とのダイアログ

外部有識者と幅広い観点で「ロッテが重視すべき取り組み」について意見交換

STEP 4

マテリアリティの整理

STEP2のディスカッションおよび、STEP3のダイアログをもとにマテリアリティを整理



STEP 5

中期目標の策定

マテリアリティに対する中期目標の策定と、実現のための取り組みを検討
(詳細はP10以降をご覧ください。)

アリティ

SDGsについて

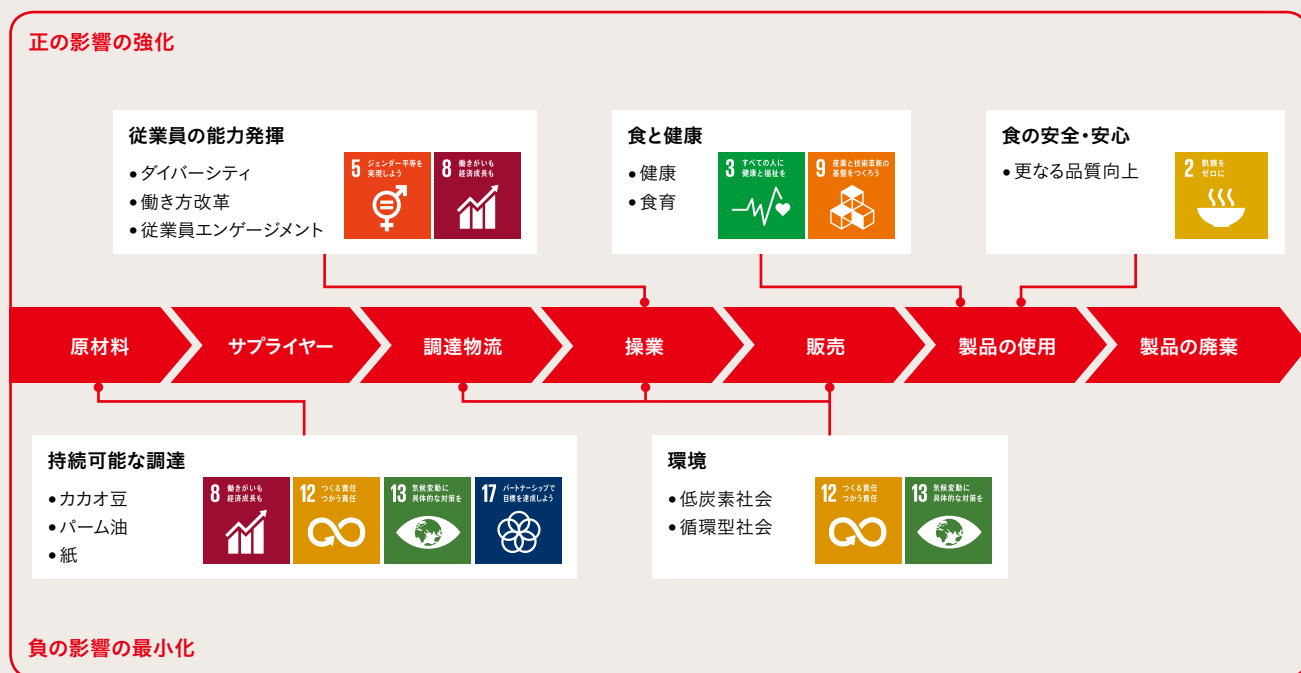
国連は2015年、貧困や不平等、不公正の撲滅、気候変動への対応など2030年までに達成すべき17のゴールとして「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択しました。SDGsは単なる期待目標ではなく、世界中の政府、地域社会、企業に対し広く協力を求め、人類と地球の繁栄の実現を目指す具体的な行動計画です。

世界では今、SDGs達成とより良い世界の構築に向けて、企業が長期的視点に立った枠組みを策定し、積極的にサステナビリティに貢献することが期待されています。



▶ バリューチェーンにおけるマテリアリティマッピング

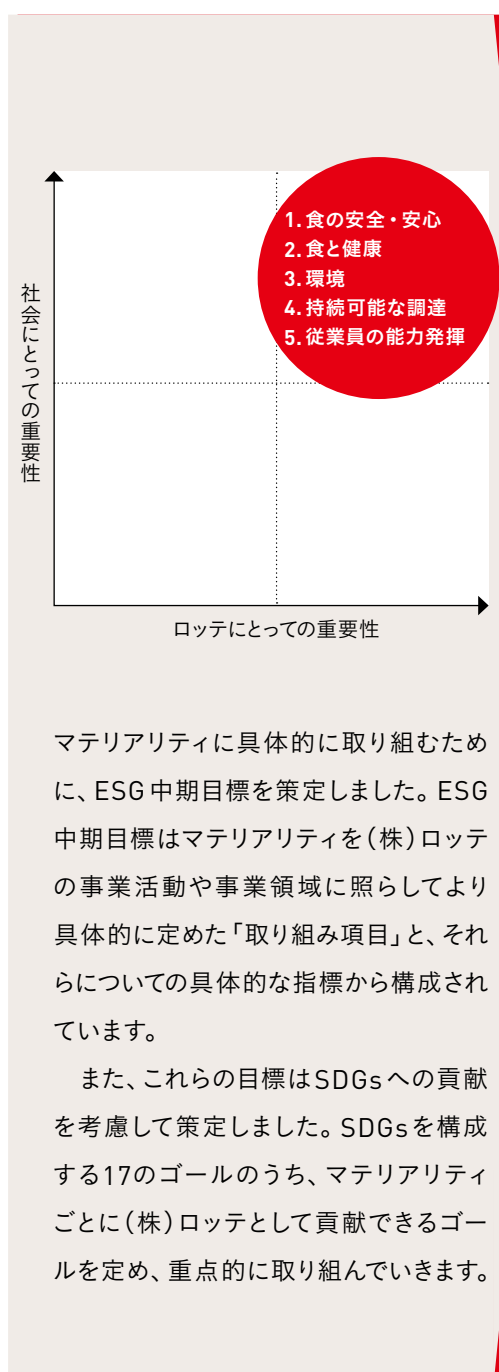
各マテリアリティのバリューチェーン上での影響を分析し、それぞれのマテリアリティが「正の影響の強化」もしくは「負の影響の最小化」に貢献するかを特定しました。



(注)SDG Compassを参考に作成

ロッテのマテリアリティとESG中期目標

マテリアリティマップ



マテリアリティ	SDGsへの貢献
1 食の安全・安心 ▶ P12	2 食料をゼロに ▶ 食の安全・安心の確保
2 食と健康 ▶ P13	3 すべての人に健康と福祉を 9 産業と技術革新の基盤をつくろう ▶ 咀嚼による健康への貢献 ▶ 健康な食生活に貢献する製品の創造と普及 ▶ 食に関する正しい知識の普及
3 環境 ▶ P14	12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を ▶ 温室効果ガスの排出削減 ▶ 食資源枯渇への対応 ▶ 循環型社会の実現へ貢献
4 持続可能な調達 ▶ P15	8 働きがいも 経済成長も 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナリシップで目標を達成しよう ▶ 持続可能なサプライチェーンの実現
5 従業員の能力発揮 ▶ P16	5 ジェンダー平等を促進しよう 8 働きがいも 経済成長も ▶ 多様性の尊重による事業競争力強化 ▶ 生産性向上による労働力不足への対応

(株)ロッテは、事業活動を通じて取り組むべきマテリアリティとして「食の安全・安心」「食と健康」「環境」「持続可能な調達」「従業員の能力発揮」の5つのテーマを設定しました。これらは社会と共に持続的に発展し続けるために欠かせないものであり、グループ全体で取り組みを推進していきます。そのために、ESG中期目標を策定し、具体的な指標を定め、各部門の計画に反映していきます。また、目標の達成に向けて、毎年進捗を確認し、情報公開に努めていきます。各目標とその達成に向けた取り組みの詳細については次ページ以降で紹介しています。

ESG 中期目標

取り組み項目	指標	2023年目標	2028年目標
更なる品質向上	GFSI 承認スキーム (FSSC22000/BRC)	国内外全工場で 認証維持	国内外全工場で 認証維持
	ロッテ新品質保証システム「LOTTE ADVANCE」 の導入	国内外全工場へ 導入完了	国内外全工場で 継続運用
健康	「噛むこと」を意識して実践している人の割合 (国内)	35% 以上	50% 以上
	製品を通じた健康な生活への貢献人数 (国内)	3,456万人以上	さらに拡大を目指す
食育	食育受講者数	年間10万人以上	年間15万人以上
低炭素社会	CO ₂ 排出量削減率 (2013年度比 原単位)	13% 以上削減	26% 以上削減
循環型社会	食品ロス削減率 (2017年度比 原料受け入れ～納品)	25% 以上削減	50% 以上削減
	生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率	99% 以上 (国内)	99% 以上 (国内+海外)
カカオ豆	フェアカカオ使用率	20% 以上	50% 以上
パーム油	第三者認証油使用率	100% (国内)	100% (国内+海外)
紙	環境に配慮した紙使用率 (製品の包材)	100% (国内)	100% (国内+海外)
ダイバーシティ	女性管理職比率 (国内)	10% 以上	20% 以上
働き方改革	一人当たり年間総労働時間 (国内)	1,850時間 以下	1,800時間 以下
従業員 エンゲージメント	働きがいを感じている社員割合 (国内)	80% 以上	80% 以上維持

1 食の安全・安心



基本的な考え方

製品づくりにあたっては、安全・安心で高品質であることはもちろん、「楽しさ」「おいしさ」「やすらぎ」の付加価値が感じられることも不可欠であると考えています。それらすべてを私たちの実現すべき「品質」とであるとみなし、全従業員で品質の向上に取り組んでいます。

更なる品質向上

GFSI 承認スキーム (FSSC22000/BRC)

すでに、国内外のすべての工場でGFSI承認スキーム(FSSC22000/BRC)認証を取得しています。世界70か国の流通・食品大手約400社が組織したTCGF(The Consumer Goods Forum)が運営するGFSI(Global Food Safety Initiative)が承認している規格で、HACCPに基づくISO22000に追加要求事項を加え、さらにフードディフェンスなど食品安全対策についても定めた世界標準の食品安全規格です。

▶ 詳細はP40へ

新品質保証システム「LOTTE ADVANCE(ロッテアドバンス)」の導入

今後、更なる品質の向上と情報発信を目指し、独自の新品質保証システムを構築・運

用していきます。このシステムは、現在取得している食品安全の認証であるGFSI承認ス

キーム(FSSC22000/BRC)をベースに、品質マネジメントシステムの国際規格である

ISO9001の設計開発システムの考え方を取り入れ、独自のルールによって構成されています。順次、新品質保証システムに係る基準やガイドラインの整備と体系化を行い、2023年度までに国内外のすべての工場に展開していきます。

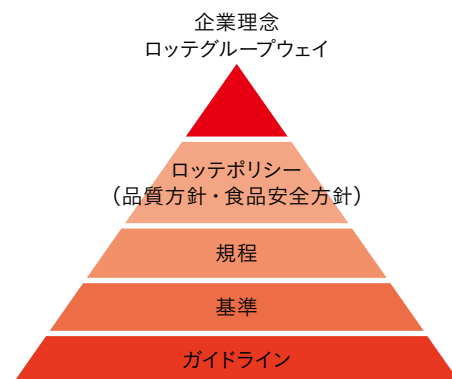
▶ 詳細はP40へ

LOTTE ADVANCE

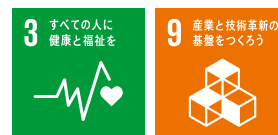
LOTTE ADVANCEの構成



LOTTE ADVANCEに係る基準・ガイドライン体系



2 食と健康



基本的な考え方

私たちは、創業以来培ってきた知見や技術を活かし、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。例えば、1997年発売の「キシリトールガム」は、歯を丈夫で健康に保つという新しい健康価値を生み出し、社会に貢献してきました。引き続き、身体はもちろん、心の健康にも役立つ製品の研究・開発や情報発信・啓発活動に注力し、私たちが大切にしてきた「おいしさ」を軸に、食で健康価値を提供し、社会課題の解決に貢献していきます。

健康

「噛むこと」を意識して実践している人の割合(国内)

チューインガムで創業した私たちは、長年「噛むこと」について研究を重ねてきました。「噛むこと」は食をつかさどる基本的な身体機能であると同時に、脳や心、身体にまで多大な影響を及ぼしていることが明らかになっています。「噛むこと」の重要性や研究成果の発信を通じて、「噛むこと」を普及させ、人々の豊かな生活に貢献できるよう取り組んでいます。

▶ 詳細はP43-45へ

製品を通じた健康な生活への貢献人数(国内)

健康意識の向上や少子高齢化、食生活の多様化といった社会変化を背景に、「おいしさ」だけでなく「身体にいい」ものを「手軽に」摂りたいという消費者ニーズが高まっています。創業以来培ってきた知見や技術を活かし、新しい健康価値を持つ製品を開発することで、お客様の健康な生活へ貢献していきます。

▶ 詳細はP45へ

食育

食育受講者数

食は健康の源と考え、正しい食に関する知識や理解を深める食育活動に取り組んでいます。工場見学や手作り体験教室、出張授業など様々な機会、健康な食生活に役立つプログラムを参加者に合わせて分かりやすく提供していきます。

▶ 詳細はP46-47へ

2023年目標

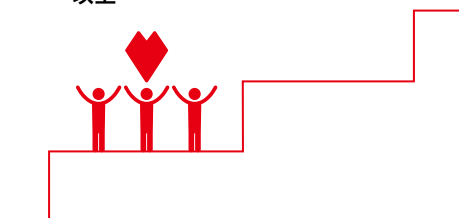
2028年目標

35%以上

50%以上

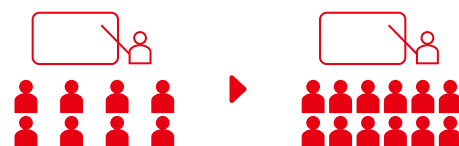


3,456万人
以上



年間10万人
以上

年間15万人
以上



3 環境



基本的な考え方

地球環境の保全は生命の存続に係わる最重要課題であり、私たちのビジネスも地球環境の恩恵を受けて成り立っています。こうした考えのもと、持続可能な地球環境の実現に貢献することを重大な責任の一つと捉えています。中でも「低炭素社会」と「循環型社会」の実現に向けた貢献を重点的に取り組む課題と位置付けています。

低炭素社会

CO₂排出量削減率

CO₂排出量削減による温暖化対策は、持続可能な地球環境の実現のために欠かせない取り組みです。排出量削減目標を設定し、省エネルギー活動と再生可能エネルギー導入の両面からグループ全体で取り組むことで、目標達成を推進していきます。

▶ 詳細はP30へ

2023年目標



(注) 2013年度比 原単位

2028年目標



循環型社会

食品ロス削減率

食品企業の責任として、原料受け入れから納品までに生じる食品ロスを2028年度までに、2017年度比で半減させるという目標を掲げました。目標達成に向けて、バリューチェーンの各部門で取り組みを実施するとともに、フードバンクなどを活用した食品の有効利用を推進していきます。

▶ 詳細はP33へ

25%以上
削減



(注) 2017年度比 原料受け入れ～納品

50%以上
削減



生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率

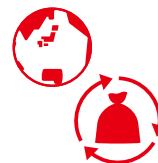
有限な資源を無駄なく使い、廃棄物の発生を抑制することはもちろんですが、発生した廃棄物については徹底的に有効利用し尽くすことが重要と考えています。そこで、各工場の生産工程から排出される廃棄物を99%以上再資源化することを目標に掲げ、取り組んでいきます。

▶ 詳細はP32へ

99%
以上
(国内)



99%
以上
(国内+海外)



4 持続可能な調達



基本的な考え方

高品質な製品・サービスを安定的にお客様にお届けするためには、安全・安心であることはもちろん、環境や社会にも配慮した、持続可能な原材料の調達が重要だと考えています。これを実現するため、取引先や業界内外のステークホルダーと連携して、サプライチェーン全体で持続可能な調達活動を推進しています。

カカオ豆

フェアカカオ使用率

世界的にカカオ豆の需要が拡大しており、カカオ豆を持続的かつ安定的に調達することは事業活動にとって重要な課題です。そのため、(株)ロッテではカカオ豆の生産地に寄り添い、現地の経済的・社会的発展に貢献する調達活動を「Fair Cacao Project (フェアカカオプロジェクト)」と名付け、その活動に基づいたカカオ豆の調達を拡大していきます。



▶ 詳細はP36-37へ

2023年目標

20%以上



2028年目標

50%以上



パーム油

第三者認証油使用率

チョコレートやビスケット、アイスクリームなど多岐にわたる製品でパーム油を使用しています。パーム油の持続可能性に取り組むために、RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) などの第三者認証を取得したパーム油の使用を拡大していきます。

▶ 詳細はP38へ

100%
(国内)



100%
(国内+海外)



紙

環境に配慮した紙使用率(製品の包材)

森林資源を有効利用し、地球温暖化防止に貢献するため、環境に配慮した紙の調達を推進しています。具体的には、FSC (森林管理協議会) などの第三者認証紙や再生紙などの利用を拡大していきます。

▶ 詳細はP38へ

100%
(国内)



100%
(国内+海外)



5 従業員の能力発揮



基本的な考え方

事業を支える最も重要な基盤は人材です。私たちは、従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、いきいきと活躍できる環境を整えることで、企業の持続的な発展へとつなげていきます。

ダイバーシティ

女性管理職比率(国内)

多様な人材が持てる能力を最大限に発揮できるよう、ダイバーシティを推進し、イノベーションの創出を促進します。まずは、女性管理職比率を指標として、企業だけでなく社会全体の喫緊の課題である「女性活躍の推進」に取り組み、性別に関係なく活躍できる制度・風土を整備し、ダイバーシティを推進していきます。

▶ 詳細はP24-25へ

2023年目標

2028年目標

10%以上

20%以上



働き方改革

一人当たり年間総労働時間(国内)

一人ひとりが働きやすい職場づくりに向け、生産性向上による労働時間削減に取り組み、「ライフ・ワーク・バランスの実現」を目指します。一人当たり年間総労働時間の削減を指標として、在宅勤務やスライドワークなど、働きやすい環境整備を進めるとともに、従業員の意識改革にも取り組み、心も身体も健康で、充実した生活の実現を目指します。

▶ 詳細はP25へ

1,850時間
以下

1,800時間
以下



従業員エンゲージメント

働きがいを感じている社員割合(国内)

一人ひとりがいきいきと働き、自らの成長と働きがいを感じられる職場づくりに取り組み、「従業員エンゲージメントの向上」を目指します。定期的に、国内の全社員を対象とした「社員意識調査」を実施し、従業員エンゲージメントの指標である「働きがい」を定量的に把握し、課題の抽出と改善に向けた取り組みを継続していきます。

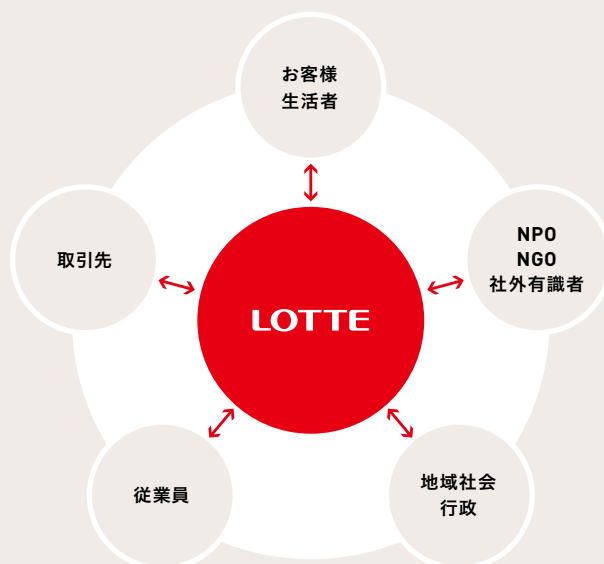
▶ 詳細はP26へ

80%
以上



ステークホルダーエンゲージメント

(株)ロッテは、様々なステークホルダーと関わりながら企業活動を行っています。企業活動を通じていただいたご意見やご期待を活動に反映しながら、持続可能な社会の実現に貢献できるよう取り組んでいます。



ステークホルダー	エンゲージメント方法	成果／実績など
お客様／生活者	- お客様相談室 - ホームページ - 食育イベント	- お問い合わせの実績と、お客様の声を活かす仕組みの活用 (P42参照) - 工場見学や手作り体験教室の実績 (P46-47参照)
取引先	- 日常的なコミュニケーション - 品質に関する取り組み	- サプライヤーガイドラインを用いた価値観の共有 (P38-39参照) - 自己評価依頼とフィードバックや衛生点検 (P39参照)
従業員	- 人材育成 - 社内報 - 社員意識調査 - 内部通報制度	- 人材育成プログラムとキャリアデザイン (P26-27参照) - 社内報WEB化 (2019年5月より) - 社員意識調査結果 (P26参照) - 内部通報件数実績 (P39参照)
地域社会／行政	- 工場近隣住民への配慮 - 地域イベントへの参加や協賛 - 被災地支援	- 地域との交流 (P46-48参照) - 被災地支援活動 (P46参照)
NPO・NGO／社外有識者	- ダイアログ - NPO／NGOとの協働	- ダイアログ実績 (P18-20参照) - 持続可能な調達の取り組み (P36-39参照) 「噛むこと」の普及の取り組み (P43-45参照)

有識者ダイアログ

2019年4月、5つのマテリアリティと新たに策定した「ESG中期目標」について、社外のご意見を伺うため、有識者4名とダイアログを開催しました。各人より、それぞれの視点から、(株)ロッテのサステナビリティの取り組みへの評価や、今後に向けたアドバイスを頂戴しました。

(注)有識者の掲載は、五十音順です。

MAKIKO AKABANE / RUMI IDE / YUKI URAGO / JUNICHI MIZUO

非常に分かりやすい、マテリアリティと「ESG中期目標」だと評価しています

新たに策定された「ESG中期目標」は、5つと簡潔にまとまっていて、非常に分かりやすいです。「持続可能な調達」では、カカオ豆、パーム油、紙と、重要な3点を挙げられている点が評価できます。特に、カカオ豆やパーム油など、一次産品のトレーサビリティは、食の安全・安心に加えて、持続可能な調達の観点からも大切なので、目標達成に向けて引き続き注力してほしいです。今後のアドバイスとして、環境や人権への配慮だけでなく、アニマルウェルフェアの観点からもサプライチェーンのマネジメントができるよう整えてほしいです。品質については、海外を含む全工場で認証を取得できていることは、とても素晴らしいことだと思います。「食の安全・安心」の中で掲げられている、ロッテ独自の新品質保証システムにも期待しています。今回、サステナビリティレポートを刷新させると聞いていますが、様々な取り組みを一層開示してほしいです。例えば、取り組み始めたばかりの内容でも開示することで、社内外の対話をより活発なものにしてほしいです。



赤羽 真紀子氏

CSRアジア株式会社 日本代表

経歴

早稲田大学で政治学と生物学を修める。様々な業種の多国籍企業のCSR担当として通算10年以上の経験を有し、スターバックスコーヒージャパン(株)、(株)セールスフォース・ドットコム、日興アセットマネジメント(株)の各社で関連部署の立ち上げを手がける。2010年より現職

社内浸透も進めながら、 目標達成を目指してほしいです

政府目標よりも前倒しの数値目標を立てられており、評価できます。一般的に、環境に関する目標は中長期的で、すぐに成果が出るものではありませんが、継続的に取り組んでほしいです。そのため、社内浸透を進めることも重要です。私自身の経験から、①様々な社内ツールを活用し、定期的に伝えることと、②財務的メリットを合わせて伝えることが、有効だと考えています。②の例として、食品ロスの削減は、コスト削減にもつながることが挙げられます。また、懇親会での3010運動*など、社員が気軽にできることから意識付けすることもあると思います。

「環境」について、昨年のダイアログでも申し上げた通り、まずはリデュースを意識して3Rを進めてほしいです。特に、海外での廃棄も減らすことで、SDGsの「誰一人取り残さない」を実践してほしいと思います。また、自然災害は避けられなくなっているため、避難所のQOL改善に役立つ製品の開発や食べ方の提案なども期待しています。「従業員の能力発揮」では、社員の健康に関する指標も設けるなど、積極的に取り組んでほしいです。

* 宴会などで、「乾杯後30分」と「お開き10分前」は料理を楽しみ、食品ロスを減らす運動



井出 留美氏

ジャーナリスト、食品ロス問題専門家
第2回食生活ジャーナリスト大賞
(食文化部門)受賞者

経歴

奈良女子大学食物学科卒、博士(栄養学
女子栄養大学大学院)、修士(農学 東京
大学大学院農学生命科学研究科)。ライ
オン(株)、青年海外協力隊を経て日本ケ
ログ広報室長等歴任。東日本大震災の
際に、食料支援で食料廃棄に憤りを覚え、
誕生日を冠した(株)office 3.11設立。日
本初のフードバンクの広報を委託され、PR
アワードグランプリソーシャルコミュニケー
ション部門最優秀賞へと導く。著書に、『賞
味期限のウソ食品ロスはなぜ生まれるのか』



浦郷 由季氏

一般社団法人全国消費者団体連絡会*
事務局長

(※ 消費者団体の全国的な連絡組織で、
くらしに関わる様々なテーマについて、
審議会への委員参加やパブリック
コメントの提出などを通じて消費者の
立場から意見発信をしている)

経歴

神奈川大学経済学部卒業。7年間の会社
勤めの後、専業主婦として子育てをしながら
生協の活動に関わる。生活協同組合
ユニーコープ、日本生活協同組合連合会の理事
を経て、2017年5月より現職。厚生労働
省、食品安全委員会、消費者庁、消費者
委員会などの審議会等委員を務める

より多くの方にロッテの魅力を知っていただくためにも、 ロッテならではの取り組みを発信してほしいです

全体を通して分かりやすく、目標達成の見通しが立っていることが伝わってくる内容
と評価しています。「食の安全・安心」は、消費者にとって大切なテーマなので、引き
続き取り組んでほしいです。特に、生産現場で当たり前に行っていることと、それをき
ちんと検証することが重要です。一方で、食品は様々なリスクがつきものです。消費
者とのコミュニケーションは、店頭を活用することが非常に有効だと思うので、今後
も意識してほしいです。「食と健康」については、食育を様々な場でこれからも展開し
ていき、体験型など記憶に残りやすい方法で進めていってほしいです。

マテリアリティの取り組みを推進し、より多くの方にロッテの魅力を知っていただく
ためにも、ロッテならではの取り組みを発信してほしいです。例えば、「噛むこと研究
室」を設置されていますが、噛むことの効果を高齢者をはじめ多くの方に伝えること
は、健康寿命延長への貢献につながるのではないのでしょうか。「持続可能な調達」の
観点では、カカオ豆の取り組みなど、もっと積極的に開示することが重要です。



水尾 順一氏

駿河台大学名誉教授・博士(経営学)、株式会社ダイセル社外監査役、株式会社西武ホールディングス企業倫理委員会社外委員

経歴

(株)資生堂から駿河台大学教授を経て、2018年3月末退職、現在に至る。日本経営倫理学会副会長、(株)西武ホールディングス企業倫理委員会社外委員、一般社団法人経営倫理実践研究センター首席研究員、2010年ロンドン大学客員研究員他。著書『サステナブル・カンパニー〜「ずーっと」栄える会社の事業構想』(株)宣伝会議など多数

正しいステップを踏んで、マテリアリティの策定ができていますと評価できます

正しいステップを踏んで、マテリアリティの策定ができていますと評価できます。現在掲げられている課題の他には、プラスチックごみの問題が世界的な関心を集めています。ロッテとしての対応を今後検討してほしいです。

5つのマテリアリティを策定されていますが、事業活動の担い手は従業員であり、「従業員の能力発揮」はすべての基盤となる最重要の活動と捉えるべきです。「健康経営優良法人2019〜ホワイト500〜」にも認定されていますが、健康経営をさらに進め、従業員満足度を上げてほしいです。また、2016年にダイバーシティを推進する部署「いきいき活躍推進課」を設置されていますが、取り組みや成果について社内外へ報告されることを期待しています。特に、男性の育児休業取得の文化・風土を作ってほしいと思います。男女問わず、様々なライフステージでも活躍できる企業となることで、組織の価値も上がり、就職を考えている学生にとっても、より注目される企業になると思います。トップの強いリーダーシップのもと、進められることを期待しています。

ダイアログを受けて



坂井 建一郎

株式会社ロッテ
上席執行役員
経営戦略本部長

力強く「ESG 中期目標」達成を推進してまいります

サステナビリティへの取り組みを加速させるために、「ESG 中期目標」を新たに掲げました。今年度より目標達成に向け、具体的なアクションをスタートさせたところです。今回のダイアログでは、私どもの目指す方向性が社会からの期待に添うものであるとのご意見をいただきましたので、目標達成に向けて力強く推進してまいります。

一方で、具体的なアクションに関するヒントやアドバイス、また、私どもがまだ手を付けられていない課題など、沢山の貴重なご助言やご意見をいただきました。特に、プラスチックごみの問題については社会からの注目度も高く、今後の方向性について社内の議論を深めてまいります。その他のご助言やご意見についても引き続き検討するとともに、今後も定期的にダイアログを実施し、社外からの忌憚のないご意見に傾聴しながら取り組んでまいります。

2018年度 活動報告

ISO26000の 7つの中核主題に基づく サステナビリティ 活動報告

(株)ロッテでは、社会的責任に関する国際ガイダンス規格であるISO26000を、サステナビリティ活動の課題整理に活用しています。ISO26000の7つの中核主題「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画およびコミュニティの発展」に沿って、(株)ロッテおよび子会社のサステナビリティ活動をご紹介します。

22 組織統治

23 人権

24 労働慣行

30 環境

36 公正な事業慣行

40 消費者課題

46 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

組織統治

2018年度
活動報告

私たちは、企業理念をすべての基本とし、企業活動を行ってきました。今後も、様々なステークホルダーから信頼される企業であるために、コーポレート・ガバナンスのより一層の強化を進め、持続的な成長と企業価値の向上を目指していきます。

コーポレート・ガバナンス

2019年6月26日現在

機関設計の形態	監査役会設置会社
取締役の人数 (うち社外取締役人数)	8名 (社外取締役4名 うち女性1名)
監査役の人数 (うち社外監査役人数)	3名(社外監査役2名)
執行役員人数	15名
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ
内部監査部門	監査部

リスクマネジメント

危機管理体制

各部門からの代表者で構成される「危機管理委員会」が、全社のリスクマネジメントを統括する役割を担っています。危機管理委員会では、顕在化した際の被害を最小限に抑えるための対策だけでなく、リスクを未然に防ぐために、社内外の環境を考慮して、事業活動を行う上で顕在化し得るリスクを評価しています。

大規模災害への対策

東日本大震災を踏まえて、2012年に「大規模災害対応マニュアル」を策定しました。本マニュアルでは、地震などの大規模災害発生時に従業員が安全を確保し、二次災害を防止するなど冷静に行動するためのガイダンスを示しているほか、普段の備えについても説明しています。また、災害などが発生した場合に、速やかに事業を復旧し継続するために、事業継続計画(BCP)を策定しています。

企業理念

理念の浸透

企業理念浸透のため、事業所への掲示や役員からの継続的な発信に加え、創業の精神や企業理念に込められた想いを伝えるウェブブックを制作し、従業員がいつでも見られるようにしています。また、子会社などには同内容の冊子を配布して理念の共有と浸透を図っています。



海外子会社向け多言語版冊子

(7か国語：英語、日本語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、中国語、ポーランド語)

ロッテアワード

企業理念のロッテバリューである「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」を体现している優秀な

取り組みを表彰するロッテアワードを毎年実施しています。これにより、従業員のモチベーションアップを図るとともに、企業理念の理解・浸透とそれに基づいた行動を促進しています。また、2018年度よりESG賞を新設し、サステナビリティ活動の従業員への啓発の一助としています。



人権

2018年度
活動報告

私たちは、人権の尊重を前提にすべての企業活動を行っています。直接的な人権侵害を一切行わないことはもちろん、ステークホルダーと協力し、事業活動が間接的に人権侵害に加担することがないよう努めています。

人権方針

2018年4月18日 制定

私たちは、企業活動に関わる全ての人の人権を尊重し、一切の差別やハラスメントを行いません。

1. 差別およびハラスメントを行いません。

私たちは、個人の基本的な人権と個性や多様性を尊重するとともに、人種、民族、国籍、性別、年齢、宗教、言語、障がいの有無等に基づくあらゆる差別およびハラスメントを行いません。

2. 強制労働および児童労働を行いません。

私たちは、一切の強制労働および児童労働を行いません。

3. 人権侵害の加担回避に努めます。

私たちは、ステークホルダーの皆様と協力しながら、企業活動が人権侵害に加担することが無いよう努めます。

4. 職場環境に配慮します。

私たちは、従業員が安全かつ安心でき、心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境を実現します。

5. 従業員の基本的権利を尊重します。

私たちは、結社の自由と団体交渉に関する、従業員の基本的権利を尊重します。

従業員に対する取り組み

研修

(株)ロッテでは、全社員を対象にハラスメント防止研修を順次実施しており、2018年度は約400人が受講しました。あらゆる差別およびハラスメントを禁止した人権方針に従って、ハラスメントに関する理解を促進し、ハラスメントのない職場環境を実現することを目的に研修を行っています。また、万が一、被害にあった際の相談窓口や相談フローについても説明しています。

さらに、新任マネージャーを対象に、弁護士を招いて判例や事例に基づいてハラスメントや労務管理知識を学ぶ研修を行っているほか、新入社員を対象にハラスメントの相談窓口についての研修を行っています。

相談窓口の設置

(株)ロッテでは、内部通報制度の窓口である「クリーンライン」(P39 内部通報制度参照)の一つとして、ハラスメントの専用相談窓口を社内に設置しています。

事業における人権配慮

サプライチェーンにおける人権侵害への加担回避

私たちは、自社内における人権の尊重はもとより、サプライチェーンにおける人権侵害への加担回避にも取り組んでいます。2019年4月に制定した「(株)ロッテ サプライヤーガイドライン」でも人権尊重について明記しており、サプライヤーの皆様と基本的な考え方を共有するとともに、協働して人権尊重に努めています(P38-39 価値観の共有参照)。

研究における人権配慮

(株)ロッテ中央研究所では、文部科学省および厚生労働省の定める「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従い、被験者の尊厳と人権に配慮したルールを定めています。また、ルールの周知および人権への意識向上を目的に、定期的に講習会を開催しています。

労働慣行

2018年度
活動報告

事業を支える最も重要な基盤は人材です。私たちは、従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、心身ともに健康でいきいきと活躍できる環境を整えることで、企業の持続的な発展を目指しています。

人事方針

2018年4月18日 改定
2016年10月1日 制定

私たちは、従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、いきいきと活躍できる職場づくりを目指します。

1. 自律型人材の育成を行います。

私たちは、一人ひとりが自ら考え行動する、自律型人材の育成を行います。

2. 組織のパフォーマンスを最大限に引き出します。

私たちは、チームワークやコミュニケーションを重視し、組織のパフォーマンスを最大限に引き出します。

3. 公正な評価・処遇を目指します。

私たちは、従業員のモチベーションの維持・向上に向け、公正で納得性のある評価・処遇を目指します。

4. ダイバーシティとライフ・ワーク・バランスを推進します。

私たちは、多様な人材の活用と、生活と仕事の調和を推進し、一人ひとりが能力を最大限に発揮できる、働きやすく、かつ働きがいのある職場づくりに取り組みます。

5. 健康保持・増進に努めます。

私たちは、従業員が心身ともに健康に働けるよう、健康保持・増進に努めます。

ダイバーシティ

中期目標

私たちは、ダイバーシティの推進に対する取り組みの一環として、2023年度までに国内のグループ会社の女性管理職比率を現状の6.2%（2019年3月末時点）から10%以上にするこ
と、さらに2028年度までに20%以上を目標に掲げています。

2023年目標



10%以上

2028年目標



20%以上

女性活躍推進

多様な人材が持てる能力を最大限に発揮できるよう、ダイバーシティを推進し、イノベーションの創出を促進します。まずは、企業だけでなく社会全体の喫緊の課題である女性活躍の推進に取り組み、性別に関係なく活躍できる制度・風土を整備し、ダイバーシティを推進していきます。

女性管理職比率

2018年3月末時点 5.8%

2019年3月末時点 6.2%

集計対象：(株)ロッテおよび国内子会社

● 研修の実施

(株)ロッテでは、女性活躍推進のために様々な従業員を対象とした研修を実施しています。次世代の女性管理職候補を育成する研修に加え、女性の部下を持つ男性管理職を対象とした意識改革の研修も行っており、性別に関係なく働きやすい職場環境やライフイベントとの両立などについて理解を深めています。



研修の様子

● 経営層からの発信

(株)ロッテでは、ダイバーシティの推進および女性管理職比率の目標について経営層からの発信を行っています。経営層が率先して取り組む姿勢を示すことで、各部署が取り組みやすい風土の醸成を図っています。

● 事業所内保育所の開設

子育てをしながら働く従業員が、仕事と家庭を両立し、安心して働き続けられることを目的として、浦和工場と狭山工場の敷地内に事業所内保育所「ハッピーマーチ保育園」を2018年4月に開設しました。



ハッピーマーチ保育園

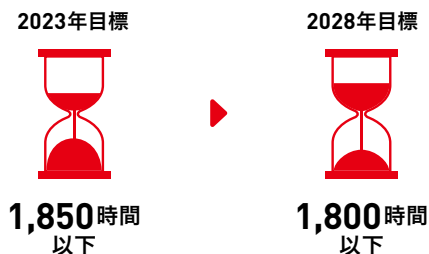
障がい者雇用

ダイバーシティ推進の取り組みの一環として、障がい者雇用の取り組みを進めています。(株)ロッテの本社ビルでは、トイレの改修や段差の解消など、多様な人々が働きやすい職場環境の整備を進めています。

ライフ・ワーク・バランス

中期目標

私たちは、ライフ・ワーク・バランスの実現に向け、2023年度までに国内のグループ会社に勤務する従業員一人当たり労働時間を現状の年間2,016時間(2018年度)から年間1,850時間以下にすること、さらに2028年度までに年間1,800時間以下にすることを目標に掲げています。



労働時間削減

一人ひとりが働きやすい職場づくりに向け、生産性向上による労働時間削減に取り組み、ライフ・ワーク・バランスの実現を目指しています。

2018年度

従業員一人当たり総労働時間 年間2,016時間

従業員一人当たり時間外労働時間(管理職を除く) 年間200時間

集計対象：(株)ロッテおよび国内子会社

● 働き方改革推進委員会の設置

(株)ロッテでは、生産性向上による労働時間削減を実行するためには、具体的な取り組みが必要と考え、2017年5月に「働き方改革推進委員会」を設置しました。

当該委員会は関連部署と連携しながら、適正な労務管理の推進や、残業時間の多い部署の業務改善サポートに取り組んでいます。

● 在宅勤務

(株)ロッテでは、ICTを活用し時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方を推進し、労働生産性を高めるとともに、育児や介護など、ライフステージを迎えた際も安心して働き続けられることを目的として、在宅勤務の導入に向けたテストを行い、2019年度より本格導入しました。在宅勤務に限らず、従業員が持てる力を発揮し、生産性を高める新たなワークスタイルを検討していきます。

● 有給休暇の取得促進

(株)ロッテでは、余暇の充実や自己研さんに充てる時間を創出し、ライフ・ワーク・バランスの実現を目的に、有給休暇の取得促進に取り組んでいます。年度初めに有給休暇の取得日を決めておく計画有休やりフレッシュ休暇などの制度があり、今後もさらに制度の拡充を検討しています。

● 業務の効率化

(株)ロッテでは、2019年度より基幹システムの更新を行い、業務の標準化による効率化を進めています。また、ICTの活用やタブレットの導入などにより、事務作業の効率化を図り、より付加価値の高い業務に時間を振り向け、生産性を高める変革を行っています。

Column

労働時間削減に向けた取り組み ((株)ロッテ 働き方改革推進委員会)

(株)ロッテでは、生産性向上による労働時間削減を実現するためには、制度やインフラを整えると同時に、会社の風土改革および従業員の意識改革が不可欠と考えています。

そこで、一人ひとりが働きやすい職場環境に対する意識を高め、労働時間を削減することを目的に、働き方改革推進委員会が主体となり、管理職約400名を対象に、「働き方改革」説明会を開催しました。説明会では、在宅勤務やスライドワークなどの柔軟な働き方を推進する制度や、勤怠管理システムの改修による残業時間の見える化などのインフラについて説明しました。さらに、会社の風土改革および従業員の意識改革を促すため、労働時間削減の必要性について、法令遵守や健康管理の視点だけでなく、生産性向上による企業競争力の視点や、従業員一人ひとりの成長を促すライフ・ワーク・バランスの視点など、多面的に説明を行いました。受講者からは、「会社の本気度を感じた」「部下の成長のためにも、働き方改革に率先して取り組みたい」などの反響があり、日々の現場における労働時間削減の重要性を再認識する機会となりました。



従業員エンゲージメント

中期目標

私たちは、社員が成長と働きがいを感じられる職場づくりに取り組み、2023年度までに国内のグループ会社に勤務する社員のうち働きがいを感じている割合を80%以上にする、さらに2028年度まで80%以上を維持することを目標に掲げています。



社員意識調査

私たちは、従業員一人ひとりがいきいきと働き、自らの成長と働きがいを感じられる職場づくりが、個人および企業の成長、そして企業価値の向上につながると考えています。国内のグループ会社では、社員意識調査を毎年行い、社員の働き

がいを定量的・継続的に把握し、課題把握と改善に向けて取り組んでいます。

働きがいを感じている社員の割合

2017年調査	62.1%
2018年調査	58.7%

集計対象：(株)ロッテおよび国内子会社

人材育成

人材育成プログラム

私たちは、従業員一人ひとりの成長を促すことで、個性や能力を最大限に発揮し、いきいきと働くことが企業の成長、そして企業価値の向上につながると考えています。(株)ロッテでは、主体的に自分自身の成長に向けて努力する従業員を支援する様々な人材育成プログラムを整備しています。

研修費用

2017年度	53百万円
2018年度	87百万円

集計対象：(株)ロッテ

● 階層別プログラム

従業員として必要とされる基本的な知識や心構えなどを習得する新入社員研修に始まり、仕事に必要なスキルアップや今後のキャリアを考える年次研修、昇格者に対するマインドセットやマネジメントの基礎を学ぶ研修など、従業員の成長段階と目的に合わせたきめ細かな階層別のプログラムを用意しています。また、並行して職場内での業務を通じたOJTも行っており、不安を感じることなく安心して活躍できる仕組みを整えています。

● 部門別プログラム

各部門別に専門知識や技能を習得するための研修を行っています。

● 自己選択型プログラム

主体的に自分自身の成長に向けて努力する従業員には、自己選択型の自己啓発の機会を多数提供しています。語学研修に加え、応募型の集合研修であるチャレンジスクールや通信教育を整備しており、幅広い知識や技能を習得できます。

● 選抜型プログラム

次世代リーダーや次期経営人材の育成を目的とした研修をはじめ、広い視野を身に付けるための外部研修への派遣を行っています。また、女性活躍のための研修やグローバル人材育成のための研修も実施しています。グローバル人材の育成については、海外研修制度も設けており、応募者の中から研修生を選考し、海外子会社へ派遣しています。国内で経営知識や語学を習得した後、現地での実務経験や事業環境の研究などを行います。

キャリアプランを考える(自己申告制度)

(株)ロッテでは、年に一度、業務の負担感や適性、今後のキャリアプランなどについて上司と話し合う機会を設けています。従業員が今後のキャリアプランを考えるきっかけとなり、会社側は、一人ひとりの状況や適性、考えを理解し、活躍の機会の提供や育成に活用しています。

健康経営

健康経営優良法人2019～ホワイト500～に認定

私たちは、会社の発展は従業員の健康と共にあると考え、心身ともに健康に働ける環境づくりに取り組んでいます。



(株)ロッテは、経済産業省が優良な健康経営を実施している企業を認定する「健康経営優良法人2019～ホワイト500～」*に、前年度に引き続いて認定されました。

* 認定期間 2019年2月21日～2020年3月31日

労働安全衛生

労働安全衛生体制

(株)ロッテでは、中央安全衛生委員会が中心となり、各事業所の安全衛生委員会と連携して、労働災害のリスク低減に取り組んでいます。また、労働災害の再発防止に向け、掲示や研修を活用した過去の事故事例の共有などの教育も推進しています。

安全監査・点検の実施

(株)ロッテでは、安全監査・点検を実施し、法令違反防止や労働災害のリスク低減に取り組んでいます。また、万が一、労働災害が発生した場合には、再発防止に向け、原因究明と対策を徹底しています。

休業災害・重大災害被災者数

2017年度	休業災害24人、重大災害0人
2018年度	休業災害20人、重大災害0人

集計対象：(株)ロッテおよび国内子会社

労働災害による死亡者数

2017年度	0人
2018年度	0人

集計対象：(株)ロッテおよび国内子会社

人事データ一覧

従業員の状況

▶ 従業員数(人)		2018年3月31日時点			2019年3月31日時点		
		合計	男性	女性	合計	男性	女性
グループ		10,496	—	—	10,652	—	—
	従業員数	6,198	—	—	6,396	—	—
	臨時従業員数	4,298	—	—	4,256	—	—
国内		6,122	—	—	6,279	—	—
	従業員数	2,983	1,914	1,069	3,096	1,988	1,108
	臨時従業員数	3,139	—	—	3,183	—	—
	(株)ロッテ	4,649	—	—	4,851	—	—
	従業員数	2,261	1,607	654	2,361	1,679	682
	臨時従業員数	2,388	—	—	2,490	—	—
	国内子会社	1,473	—	—	1,428	—	—
	従業員数	722	307	415	735	309	426
	臨時従業員数	751	—	—	693	—	—
海外		4,374	—	—	4,373	—	—
	従業員数	3,215	—	—	3,300	—	—
	臨時従業員数	1,159	—	—	1,073	—	—
	アジア	2,868	—	—	2,760	—	—
	従業員数	2,419	—	—	2,390	—	—
	臨時従業員数	449	—	—	370	—	—
	欧米	1,506	—	—	1,613	—	—
	従業員数	796	—	—	910	—	—
	臨時従業員数	710	—	—	703	—	—

▶ 従業員の平均年齢(歳)		2018年3月31日時点			2019年3月31日時点		
		合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内		38.6	39.3	37.4	38.9	39.5	37.7
	(株)ロッテ	38.5	39.0	37.3	38.7	39.2	37.5
	国内子会社	38.8	40.6	37.5	39.3	41.1	38.1

▶ 従業員の平均勤続年数(年)		2018年3月31日時点			2019年3月31日時点		
		合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内		14.9	15.4	13.7	14.9	15.6	13.8
	(株)ロッテ	15.9	15.5	16.4	16.0	15.8	16.4
	国内子会社	11.6	14.6	9.5	11.5	14.5	9.6

採用と退職の状況

採用者数(人)	2017年度			2018年度		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内	181	93	88	236	123	113
新卒	135	78	57	164	94	70
中途	46	15	31	72	29	43
(株)ロッテ	128	75	53	151	97	54
新卒	119	72	47	141	89	52
中途	9	3	6	10	8	2
国内子会社	53	18	35	85	26	59
新卒	16	6	10	23	5	18
中途	37	12	25	62	21	41

退職者数(人)	2017年度			2018年度		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内	137	74	63	152	80	72
定年	40	26	14	51	29	22
自己都合	97	48	49	101	51	50
(株)ロッテ	87	60	27	88	62	26
定年	20	20	0	20	20	0
自己都合	67	40	27	68	42	26
国内子会社	50	14	36	64	18	46
定年	20	6	14	31	9	22
自己都合	30	8	22	33	9	24

離職率(%)	2017年度			2018年度		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
(株)ロッテ	2.7	2.2	3.9	2.7	2.3	3.7

再雇用(人)	2017年度			2018年度		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内	24	23	1	28	22	6
(株)ロッテ	19	19	0	17	17	0
国内子会社	5	4	1	11	5	6

環境

2018年度
活動報告

地球環境の保全は生命の存続に係わる最重要課題であり、私たちのビジネスも地球環境の恩恵を受けて成り立っています。こうした考えのもと、持続可能な地球環境の実現に貢献することを重大な責務の一つと捉え、事業活動から生じる環境負荷の継続的な低減に取り組んでいます。

環境方針

2018年4月18日 改定
2000年5月10日 制定

私たちは、地球環境の保全が生命の存続に係わる最重要課題として捉え、地球の一員として継続的な改善活動を行い、皆様から信頼される会社であり続けることを目指します。

1. 私たちは、天然資源を有効に活用するよう、省エネルギー・廃棄物削減活動を継続します。
2. 私たちは、限りある天然資源を未来の世代も使用できるよう、環境保護活動を行います。
3. 私たちは、企業活動から発生する生物・水・空気への汚染物質を適正管理し、削減します。
4. 私たちは、地球温暖化対策に貢献するために、温室効果ガス排出の抑制活動を行います。
5. 私たちは、環境関連法規、自主管理基準を遵守します。
6. 私たちは、持続可能な社会づくりに必要なこれらの取り組みを行うために、継続的に教育活動を行います。

CO₂排出量の削減

中期目標

私たちは、2023年度までに主な温室効果ガスであるエネルギー起源CO₂排出量(Scope1、2*)対売上高原単位を2013年度比で13%以上削減すること、さらに2028年度までに26%以上削減することを目標に掲げています。

* GHG プロトコルに基づく排出量の算出範囲

Scope 1: 事業者自らによる直接排出

Scope 2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope 3: サプライチェーンに関わるScope 1、2以外の間接排出

2023年目標

13%以上
削減

2028年目標

26%以上
削減

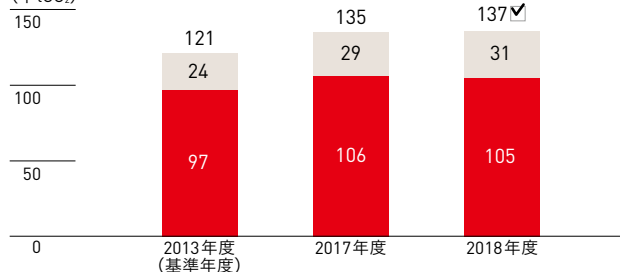
(注)2013年度比 原単位

CO₂排出量実績

2018年度のエネルギー起源CO₂排出量(Scope1、2)対売上高原単位は、基準年度の2013年度に対して3.0%削減となり、前年度より0.9ポイント改善しました。省エネルギー活動に加え、生産拠点の統廃合による効率化が寄与しました。

エネルギー起源CO₂排出量

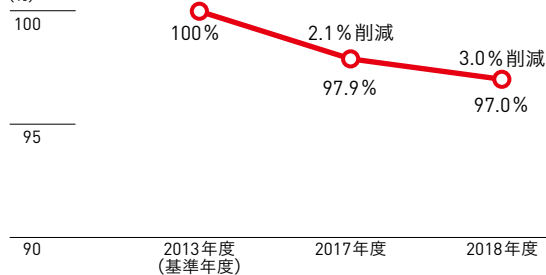
(千tCO₂)



✓の付された数値はデロイトトーマツサステナビリティ株式会社の第三者保証を受けています(P52参照)。

エネルギー起源CO₂排出量原単位 * 基準年度比

(%)



* 原単位 = CO₂排出量 / 売上高

集計対象範囲

国内: 株式会社ロッテおよび国内子会社(株式会社メリーチョコレートカムパニー、株式会社千葉ロッテマリーンズ)の固定排出源

海外: 主要な海外子会社(Thai Lotte Co., Ltd., LOTTE VIETNAM CO., LTD., PT Lotte Trade and Distribution, PT Lotte Indonesia, Lotte E. Wedel sp z.o.o)の固定排出源

算定方法

Scope 1: 排出量 = Σ(燃料使用量 × CO₂排出係数)

Scope 2: 排出量 = Σ(購入電力量等 × CO₂排出係数)

CO₂排出係数

国内: Scope1は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく排出係数を、Scope2は同法律に基づく電気事業者別の排出係数を利用しています。

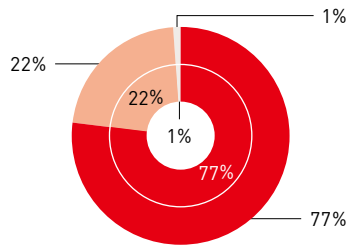
海外: Scope1は2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventoriesの排出係数を、Scope2はIEA, Emissions from Fuel Combustionの排出係数を利用し、これらが入手困難な場合は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく排出係数を利用しています。

エネルギー投入量実績

エネルギー投入量

2017年度	2,685TJ
2018年度	2,773TJ

エネルギー構成比(熱量換算)(内:2017年度 外:2018年度)



■ 購入電力 ■ ガス類 ■ その他
集計対象: CO₂排出量実績と同じ

再生可能エネルギーの導入

(株)ロッテの本社ビル(新宿区)では、2019年4月より100%水力発電由来の電力であるアクアプレミアムを導入しています。アクアプレミアムは東京電力グループの提供する電力メニューで、再生可能エネルギーである水力を使用しており、発電の際にCO₂を排出しません。今後も、再生可能エネルギーの導入によって温室効果ガスの排出を抑制し、地球温暖化の防止に貢献していきます。



(株)ロッテの本社ビル

物流における取り組み

(株)ロッテでは、物流に伴う環境負荷の低減に取り組んでいます。荷姿の工夫による積載効率の向上に努めるとともに、共同配送*1やモーダルシフト*2を推進することで、CO₂排出量の削減に努めています。

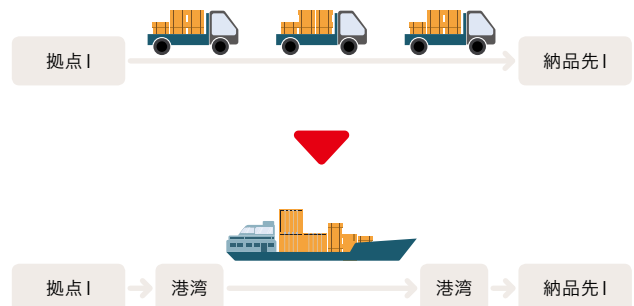
*1 共同配送

同業他社や運送業者、倉庫業者などと協力し、商品の配送を共同で行うことをいいます。配送に関わるトラックの必要台数を減らすことで、CO₂排出量の削減につながります。



*2 モーダルシフト

トラックによる配送を環境負荷が低く大量輸送が可能な海運または鉄道に転換することをいいます。(株)ロッテでは、この一環として海運の活用を推進しており、現在は九州から大阪および、東京から北海道への輸送に海運を使用することでCO₂排出量の削減に努めています。



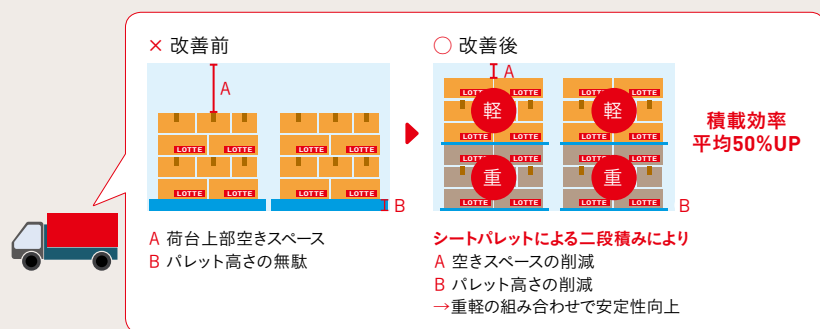
Column



出荷作業効率化の取り組み((株)ロッテ 狭山工場)

国内の物流を取り巻く環境は、人手不足や物流コストの上昇、温室効果ガス削減をはじめとした自然環境への配慮など、多くの課題を抱えています。

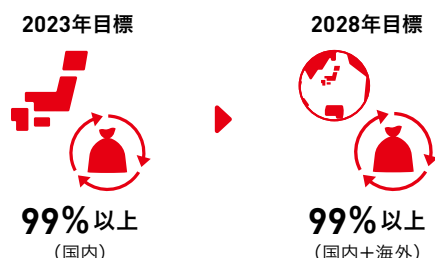
そこで、狭山工場では、出荷作業の効率化を図ることを目的に、「シートパレットによる自動二段積み装置導入」「タブレットの導入による出荷作業の効率化」「遠隔保守システムの導入」の3点を行いました。これにより、積載効率アップによるトラック台数の約25%削減とともに、出荷作業の自動化による時間短縮および人員削減を実現することができました。これらの取り組みは、人手不足や温室効果ガス削減などの物流を取り巻く社会課題の解決に貢献しながら、自社のコスト削減にもつながったことが評価され、ロッテアワード2018のESG賞を受賞しました。今後も、更なる省人化・効率化による持続可能な物流を目指して、自動化などを推進していきます。



廃棄物削減とリサイクル

中期目標

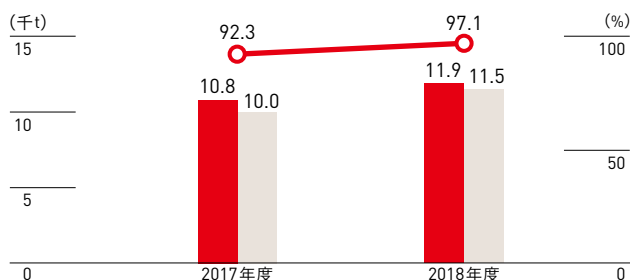
私たちは、2023年度までに国内工場の生産工程から排出される廃棄物を99%以上リサイクルすること、さらに2028年度までに国内外すべての工場でも実現することを目標に掲げています。



廃棄物の発生量とリサイクル率実績

2018年度に国内の主な拠点から排出された廃棄物は12.3千tでした。このうち生産工程から排出された廃棄物は11.9千tで、リサイクル率は97.1%となり、前年度より4.8ポイント改善しました。今後も、廃棄物の発生抑制のためにバリューチェーン全体で取り組むとともに、適切なリサイクルを推進し、リサイクル率99%以上を目指します。

生産工程から排出された廃棄物の発生量およびリサイクル率

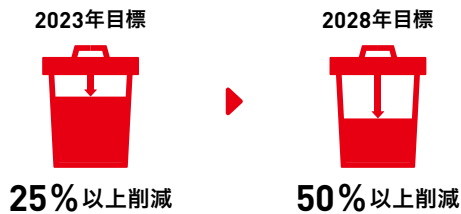


集計対象：(株)ロッテおよび(株)メリーチョコレートカムニー

食品ロス削減

中期目標

私たちは、2023年度までに食品ロス(原料受け入れ～納品)を2017年度比で25%以上削減すること、さらに2028年度までに50%以上削減することを目標に掲げています。



(注)2017年度比 原料受け入れ～納品

食品ロス発生量実績

2018年度の食品ロス(原料受け入れ～納品)の発生量は1,553tとなり、前年度より1.6%増加しました。今後は、食品ロスの発生抑制のために、需給予測の精度向上、賞味期限の延長や年月表示化、生産工程でのロス削減、フードバンクの活用など、バリューチェーン全体で取り組んでいきます。

食品ロス(原料受け入れ～納品)発生量

2017年度	1,529t
2018年度	1,553t

集計対象：(株)ロッテおよび国内子会社、主要な海外子会社。
FLW プロトコルを参考にロッテ基準で集計

フードバンク

食べ物に困っている人や福祉施設などに食品を無償で提供する取り組みをフードバンクといいます。私たちはこの活動に賛同し、NPO 法人を通じて自社製品寄贈の協力を行っています。この取り組みは、「おいしい」「たのしい」という食の喜びを伝える一助となるだけでなく、食の有効活用にもつながる有意義な取り組みと考え、今後もフードバンク活動への協力を継続していきます。

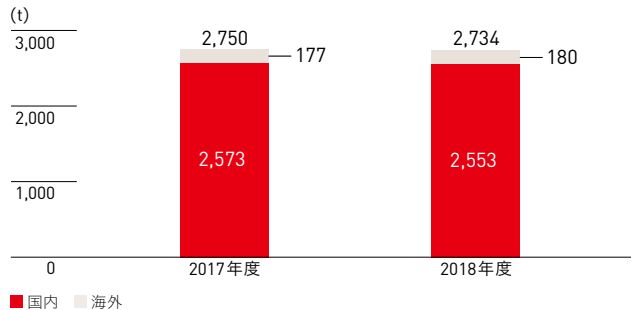


フードバンク活動の様子

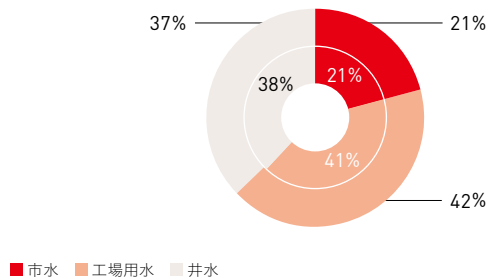
水資源

水使用量実績

水使用量



水使用比率(内：2017年度 外：2018年度)



集計対象：(株)ロッテおよび国内子会社の主要な拠点、主要な海外子会社の工場

水リスクについて

WRI(世界資源研究所)のAQUEDUCT Water Risk Atlasを使用して、国内外の工場の水リスクを評価しています。また、リスクが高いと判定された工場に関しては、現地情報のヒアリングや水使用量などの継続的な評価を行い、リスク低減の対策を検討しています。

原材料

原材料調達量実績

製品の原材料調達量

(千t)	2017年度	2018年度
原材料合計	271.1	276.2
原料	201.2	203.5
包材	69.9	72.7
紙	50.2	51.8
プラスチック	14.7	15.6
その他	5.1	5.4

集計対象：(株)ロッテおよび(株)メリーチョコレートカムパニー、主要な海外子会社

包材の環境配慮

製品の包材使用量を削減することは、省資源化はもちろん、お客様の喫食時に出るごみの削減にもつながります。各種の品質試験を実施し、製品の品質を守るという最も重要な包材の役割をきちんと確認した上で、包材の削減や軽量化に取り組んでいます。

取り組み事例

● トレーの薄肉化

トレーの厚みを減らすことで、プラスチックの使用量削減を実現しました。(製品名：トッポ袋)

トレー厚み
0.30mm→0.28mm

プラスチック重量
6.6% 削減



● 紙箱の小型化

製品設計を見直す際に、紙箱の幅を縮小し、入数当たりの紙の使用量削減を実現しました。(製品名：ガーナエクセレント)

寸法巾
12mm 縮小

入数当たり紙重量
5.5% 削減



Column

環境に配慮した製品パッケージ設計 (株)ロッテ パッケージ企画課

製品パッケージを設計する際は、パッケージ本来の品質保護機能を担保した上で、できるだけ包材の使用量を削減するなど省資源化に取り組んでいます。また、包材のバリア性を向上させることによって賞味期限を延長させ、食品ロスの削減に貢献しています。さらに、製品を効率的に積載することにより物流効率を高め、輸送による温室効果ガスの排出量削減に貢献するなど、環境に配慮した製品パッケージを設計しています。そして、ユニバーサルデザイン(UD)の観点から、誰もが開封しやすい、持ちやすいなど、人に配慮したやさしい製品パッケージの設計にも心掛けています。



環境マネジメント

環境活動推進体制

(株)ロッテ経営戦略本部CSR部が事務局となり、グループ全体の環境活動を推進しています。また、(株)ロッテの経営会議では、環境に関する重要な方針や中期目標の検討、目標の進捗確認などを行っています。

ISO14001

(株)ロッテの工場(浦和工場、狭山工場、九州工場、滋賀工場)では、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

環境監査

(株)ロッテの工場(浦和工場、狭山工場、九州工場、滋賀工場)では、環境に関する内部監査を毎年実施しています。内部監査は社内で認定された「主任監査員」および「監査員」が、ISO14001に基づいたチェックリストに照らして行っています。監査で指摘された「改善の機会」を踏まえ、各工場では継続的な改善に努めています。

「改善の機会」の指摘数

2017年度 102件

2018年度 98件

集計対象：(株)ロッテの浦和工場、狭山工場、九州工場、滋賀工場

環境教育

環境に対して適切に対応するため、(株)ロッテの各工場ではすべての従業員へ環境教育を行っています。また、環境教育の効果と環境活動の実効性を高めるために、環境教育の評価制度を導入しています。さらに、環境管理責任者やISO14001事務局と品質保証部は定期的に打ち合わせを行い、環境に関する情報共有やレベルアップを図っています。

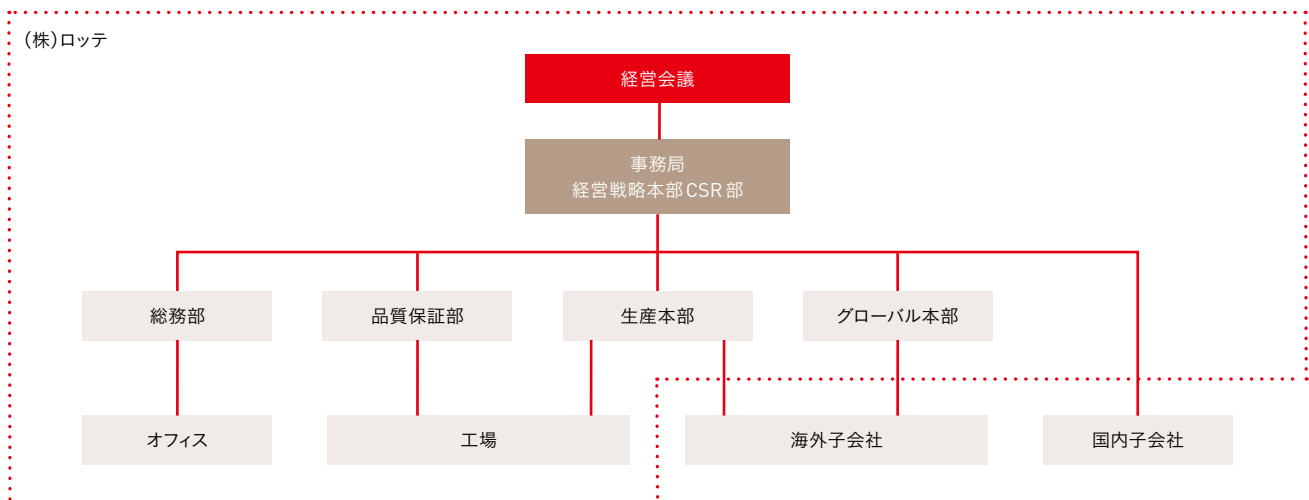


環境教育の様子

環境事故および法令違反

万が一、環境に関する事故や法令違反が発生した場合には、関係各部署や行政などと協力し、速やかに対応を講じる仕組みを整備しています。2018年度は、環境に関わる重大な事故や法令違反は発生しませんでした。

環境活動推進体制図



公正な事業慣行

倫理的で誠実な事業活動を行うことがすべての基本です。コンプライアンスを徹底することはもちろん、サプライチェーンにおける環境や人権に配慮した持続可能な調達を実現することも、将来にわたって持続的で安定した事業活動を行っていくためには欠かせません。

調達方針

2018年4月18日 制定

私たちは、企業理念に基づき、安全で安心できる高品質の製品・サービスを提供するために、高い倫理観に根ざした公正・公平で透明性のある取引を実施し、お取引先とのパートナーシップのもと、社会的責任を果たす調達活動を推進します。

1. コンプライアンスを遵守します。

私たちは、関係各国の社会規範や関連する法令を尊重・遵守し、公正で透明性のある調達活動を行います。

2. 高い品質と安全性を確保します。

私たちは、お客様に信頼され、安心していただけるよう、高い品質と安全性を確保した調達活動を行います。

3. お取引先の公正・公平な評価と選定を行います。

私たちは、お取引先に対し、常に公正・公平な参入機会を提供し、品質・コスト・納期の他、安定供給、技術力、経営安定性などの総合評価を行い、公正・公平に選定します。

4. 人権や労働環境に配慮します。

私たちは、人権を尊重し、サプライチェーンの人権侵害に負担することなく、労働環境に配慮した調達活動を推進します。

5. 環境問題に配慮します。

私たちは、地球環境に及ぼす影響を把握し、環境に配慮した調達活動を推進します。

持続可能な調達に向けた取り組み

重要原材料

使用している原材料を使用量、依存度、代替の可否、環境や社会との関わりなどの視点で総合的にリスクを評価し、重要原材料を整理しています。また、事業や地球環境の変化、社会からの要請に応じて定期的に重要原材料を見直しています。

重要原材料

カカオ豆 : チョコレート製品の主原料

パーム油 : 幅広い製品に用いられる油脂や食品添加物の原料

紙 : 幅広い製品に用いられる包材

重要原材料①カカオ豆

中期目標

私たちは、2023年度までに調達するカカオ豆のうちフェアカカオの割合を20%以上にする、さらに2028年度までに50%以上にすることを目標に掲げています。

2023年目標



20%以上

2028年目標



50%以上

Fair Cacao Project (フェアカカオプロジェクト)

カカオ豆は、その多くが赤道直下の地域で、零細農家によって生産されています。カカオ豆を主原料とするチョコレートが主力製品である私たちにとっ



て、カカオ豆の将来にわたる安定調達は重要な課題です。そのため、(株)ロッテでは、カカオ豆の生産地に寄り添い、現地の経済的・社会的発展に貢献する調達活動を「Fair Cacao Project」と名付けて取り組んでいます。その活動に基づき、生産地域が明確で、調達費用の一部が様々な生産地への支援に使われているカカオ豆(フェアカカオ)の調達割合を拡大していきます。

カカオ豆の調達実績

2018年度のカカオ豆の調達実績は6,353tで、そのうちフェアカカオの割合は7.9%でした。今後も、カカオ豆の持続可能な調達に取り組み、フェアカカオの調達割合を拡大していきます。

カカオ豆調達量

2017年度	5,800t	うちフェアカカオ8.6%
2018年度	6,353t	うちフェアカカオ7.9%

集計対象：(株)ロッテ

社会との連帯

農家の支援や、生産地域の経済発展、将来の農家の担い手である子供たちの教育水準の向上に貢献することは、カカオ豆の将来にわたる安定調達につながります。そこで、NPOやNGOなどと連帯して支援に取り組んでいます。

● 世界カカオ財団 (World Cocoa Foundation)

カカオ農家の支援を目的として

2000年にアメリカで設立され

た国際的なNPO法人です。

赤道直下のカカオ栽培地域

にて、カカオ農家の技術支援

や、過酷な児童労働のない社会の実現を目指した活動に取り組んでいます。



● ジョイセフ

女性のいのちと健康を守るため

に活動している1968年に日本

で設立された国際協力NGO

です。ジョイセフを通じて、2008

年からガーナ共和国への再生

自転車などの寄贈を支援しています。診療所が不足している

現地の村に届けられた再生自転車は、保健推進員や助産師

が利用し、家庭訪問による健康教育などに用いられています。



ジョイセフの活動

● 国連WFP(国際連合世界食糧計画WFP協会)

飢餓のない世界を目指して活

動する国連の食糧支援機関

で、活動の柱の一つとなってい

るのが学校給食プログラムで

す。学校給食を届けるための

キャンペーンである「レッドカップキャンペーン」に参加し、国連

WFPがガーナ共和国で行う、学校給食プログラムを支援して

います。



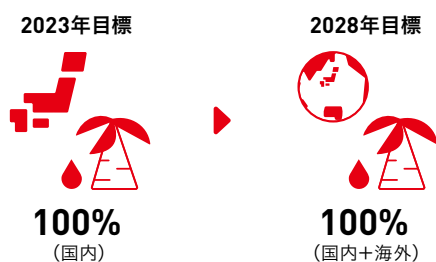
学校給食プログラムの様子

©WFP/Mandang-ba Mustapha

重要原材料②パーム油

中期目標

私たちは、2023年度までに国内で調達するパーム油を、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)認証などの第三者認証油に100%切り替えること、さらに2028年度までに国内外のグループ会社でも実現することを目標に掲げています。



パーム油の調達実績

2018年度の国内におけるパーム油の調達実績は15.9千tで、前年度より0.6千t増加しました。

パーム油調達量

2017年度	15.3千t
2018年度	15.9千t

集計対象：(株)ロッテおよび(株)メリーチョコレートカムパニー
油脂および油脂加工品に含まれるパーム油の重量

社会との連帯

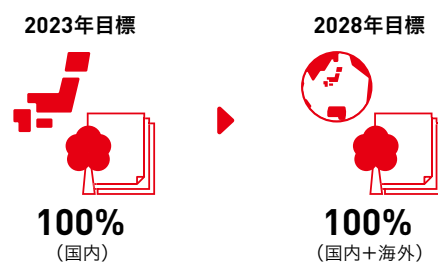
持続可能なパーム油の調達を推進するため、RSPOに加盟しています。RSPOを通じてパーム油に関わる企業・団体と連帯し、パーム油産業全体の持続可能な発展に貢献していきます。



重要原材料③紙

中期目標

私たちは、2023年度までに国内で調達する製品の包材に用いる紙を、FSC(森林管理協議会)認証などの第三者認証紙や再生紙といった環境に配慮した紙に100%切り替えること、さらに2028年度までに国内外のグループ会社でも実現することを目標に掲げています。



紙の調達実績

2018年度の国内における製品の包材に用いる紙の調達実績は45.5千tで、そのうち環境に配慮した紙の割合は92.0%となり、前年度より0.5ポイント増加しました。今後も、紙の持続可能な調達に取り組み、環境に配慮した紙の調達割合を拡大していきます。

紙調達量(製品の包材)

2017年度	44.0千t	うち環境に配慮した紙91.5%
2018年度	45.5千t	うち環境に配慮した紙92.0%

集計対象：(株)ロッテおよび(株)メリーチョコレートカムパニー

サプライヤーとの取り組み

価値観の共有

私たちは、調達方針に基づき、持続可能な調達活動を推進してきました。調達方針には、倫理的な取引や品質、安全性に関してはもちろん、サプライチェーンにおける環境や社会への配慮についても掲げています。しかしながら、サプライチェーンのグローバル化に伴い、私たちだけでサプライチェーン全体における環境や社会への影響を管理することは難しく、サプライヤーの皆様と協働して取り組むことが不可欠です。そこで、2019年4月に「株式会社ロッテ サプライヤーガイドライン」を制定しました。本ガイドラインを通して、サプライヤーの皆様と基本的な価値観を共有し、さらには対話を通じてより有益な関係を構

築して、共に持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

すでに、本ガイドラインの説明会を実施し、理解の促進に努めています。今後も定期的に開催するとともに、アンケートなどを通じた対話により、更なる理解促進と関係構築を進めていきます。

品質に関する取り組み

品質に関して取引先に自己評価をお願いし、それに基づいてフィードバックや衛生点検を行っています。これにより、食品安全をはじめとする品質全般にわたり、継続的な改善を推進しています。衛生点検では、チェックリストを用いて必要事項を網羅的に確認するとともに、必要に応じて改善要請を行い、その結果を確認しています。

コンプライアンス

行動憲章 LOTTE Group Way

「行動憲章 LOTTE Group Way」は(株)ロッテおよび子会社の役員と従業員全員が理解し、これに基づいて業務を行う指針として2008年に制定しました。また、ホームページなどで公開しており、倫理的で誠実な事業活動を社会に約束しています。7つの項目から構成されており、企業理念である「ロッテグループミッション」と「ロッテバリュー」を実現するための行動指針として位置付けられています。

また、ホームページ以外にも、企業理念ウェブブックおよび多言語版冊子の中でも行動憲章について解説し、全役員と従業員への浸透と理解促進を図っています。



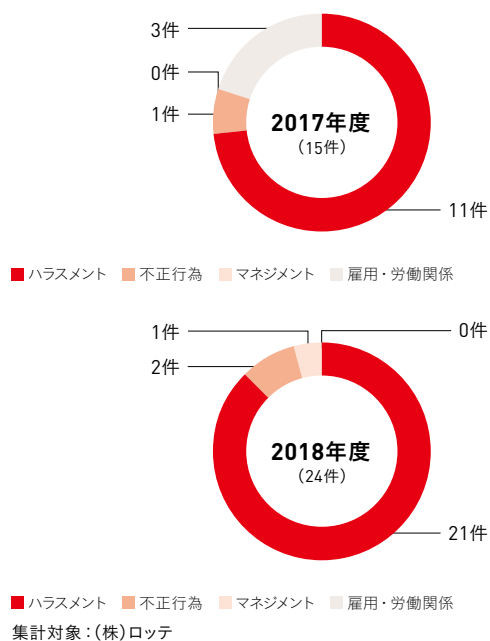
コンプライアンス研修

行動憲章の浸透と倫理的で誠実な事業活動の実践のために、従業員を対象としたコンプライアンス研修を行っています。2018年度は、前年度に引き続き、新入社員を対象にコンプライアンス研修を実施しました。今後も、計画的に研修を継続していきます。

内部通報制度

(株)ロッテでは、内部通報制度として「クリーンライン」を2006年より社内を設置し、電話やメール、手紙などで従業員からの通報や相談を受け付けています。対応については、通報者のプライバシー保護に努めるとともに、通報による不利益が生じないよう細心の注意を払っています。また、(株)ロッテおよび国内外の子会社で、社外通報窓口を2018年より順次設置しており、内部通報の実効性を高めています。

通報窓口への相談・通報件数



情報セキュリティ

(株)ロッテでは「情報セキュリティマネジメント委員会」を設置し、お客様や従業員、技術に関わる機密情報の保護と管理に取り組んでいます。同委員会では、情報セキュリティに関する教育も行っており、新入社員への研修の他、定期的に標的型攻撃メールに関する注意喚起を行うとともに、実践型の訓練を実施しています。

消費者課題

2018年度
活動報告

私たちは、企業理念のロッテバリューで「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」を掲げており、すべての企業活動の起点は消費者です。食の安全・安心はもとより、国や地域、時代によって変化する多様な食のニーズに応えていきます。

品質方針

2018年4月18日 制定

私たちは、安全で安心できる高品質な製品やサービスをお届けし、世界中の人々の豊かなくらしに貢献します。

1. お客様視点で考えます。

私たちは、常にお客様の立場に立って考え、ご満足いただける製品・サービスを提供します。

2. 安全・安心な製品づくりを第一に考えます。

私たちは、国際的に認められた食品安全マネジメントシステムに基づいた管理を行い、安全・安心な製品・サービスを提供します。

3. 法令を遵守します。

私たちは、関連する法令を遵守し、お客様に信頼していただける製品・サービスを提供します。

4. より良い製品づくりに努めます。

私たちは、日々調査・研究を尽くし、より高品質で独創的な製品・サービスを提供します。

5. 正しい情報を提供します。

私たちは、お客様に信頼し、安心していただけるよう、正しい情報を適切に発信します。

食品安全方針

2018年4月18日 制定

私たちは、企業理念と品質方針に基づき、お客様に安心して召し上がっていただける安全な製品をつくり続けます。

1. 私たちは、食品安全マネジメントシステムのもと食品安全目標を設定し、ものづくりに取り組み、継続的に改善します。
2. 私たちは、食品安全に関する法令・規制を遵守します。
3. 私たちは、お客様の要望に真摯に耳を傾け、外部機関とのコミュニケーションを密に行い、品質の向上に努めます。
4. 私たちは、当社の取り組みにご賛同いただきながら、取引先様と共に安全な製品づくりを行います。
5. 私たちは、すべての従業員へ食品安全の重要性を周知し、食品安全への取り組みを推進します。

食の安全・安心

中期目標

すでに、国内外すべての工場において、国際的な食品安全認証であるGFSI*1承認スキーム(FSSC22000*2／BRC*3)認証を取得しています。今後、更なる品質の向上と高い安全性の確保を目指し、2023年度までに独自の新品質保証システム「LOTTE ADVANCE(ロッテアドバンス)」を構築し、国内外すべての工場に展開します。

*1 GFSI: 世界食品安全イニシアチブ(Global Food Safety Initiative)の略。食品安全システムの継続的改善を目的に2000年5月に設立された国際的な非営利団体。

*2 FSSC22000: 食品安全マネジメントシステムに関する国際規格であるISO22000を追加要求事項で補強した世界標準の食品安全規格。

*3 BRC: 英国小売業協会(British Retail Consortium)の略。同協会が食品安全のための第三者認証のスキームを運用している。

新品質保証システム

「LOTTE ADVANCE(ロッテアドバンス)」

現在構築中の新品質保証シ

ステム「LOTTE ADVANCE」は、すでに取得している国際的な食品安全認証であるGFSI承認スキーム(FSSC22000／BRC)

認証をベースに、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001*の設計開発システムの考え方と、独自の高い品質や安全のルールを取り入れています。

「LOTTE ADVANCE」は、「品質方針」および「食品安全方針」とそれに紐づく「規程」および、項目ごとに定めた「基準」、具体的なルールなどを定めた「ガイドライン」によって構成されています。(株)ロッテ品質保証部が中心となり、子会社を含めた基準やガイドラインの整備を進めていきます。

* ISO9001: 品質マネジメントシステムの国際規格

**LOTTE
ADVANCE**

品質保証推進体制

(株)ロッテ品質保証部が中心となり、(株)ロッテグループ全体の品質保証を推進しています。また、(株)ロッテの経営会議では、品質保証に関する重要な方針や中期目標の検討、目標の進捗確認などを行っています。また、各子会社や各部門の担当者のレベルアップを図るため、品質や衛生に関する社内教育を行っています。

品質保証監査

(株)ロッテ品質保証部は、お客様に最上の品質・安全を約束するために、工場の監査を定期的実施しています。2018年度は、国内自社工場へ各2回、国内子会社工場へ各1回の定期監査と、東南アジアの子会社工場へ各1回の定期衛生点検を行いました。また、協力工場への衛生監査も行っています。

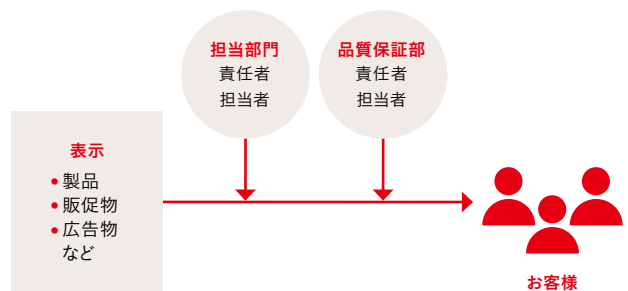
工場での異物混入対策

(株)ロッテの工場では製品への異物混入防止施策を重点的に実施しています。生産現場への入場時には、手洗い・アルコール消毒はもちろん、空気の噴射による「エアシャワー」、掃除機のように吸い取る「吸引式毛髪・塵埃除去機」、「粘着ローラーがけ」の3重の工程を経て、衣服に付着した毛髪やホコリなどの異物を取り除いています。また、製造工程においては、金属検出器、X線検査装置など複数の異物検出装置を用いて商品の安全性を確保しています。

適正な表示

製品や販促物、広告物などの表示については、関連法規を遵守することはもちろん、お客様に分かりやすく、誤認を与えないよう努めています。(株)ロッテでは、表示のチェックを複数部署の複数人で行うことで、間違いを防ぐ体制を設けています。また、担当者のレベルアップを図るため、食品の表示に関する社内教育を品質保証部が主導して行っています。

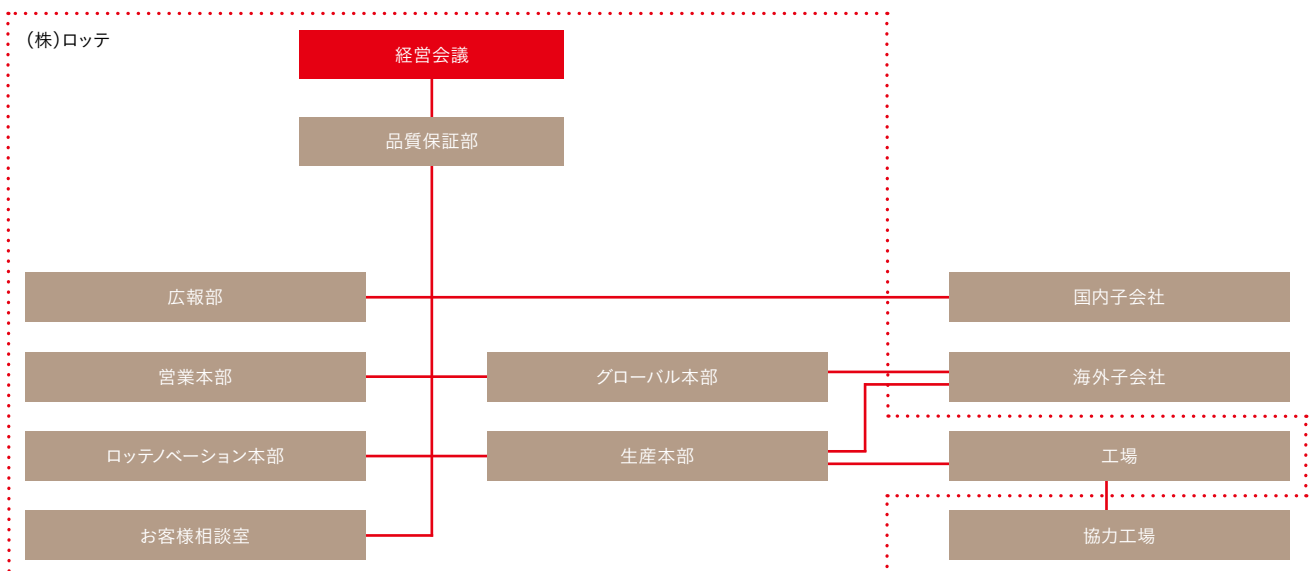
表示のチェック体制



リコール

2018年度は、(株)ロッテで2件のリコールを実施しました。徹底的な原因究明と対策を行い、再発防止に努めてまいります。

品質保証推進体制図



Column

表示ミスの削減に向けた取り組み ((株)ロッテ 品質保証部)

パッケージや広告物をデザインする段階だけでなく、工場で製品を生産する際にも、賞味期限の印字不良やアレレルゲンの混入、誤った包材の使用など、表示ミスのリスクが存在します。

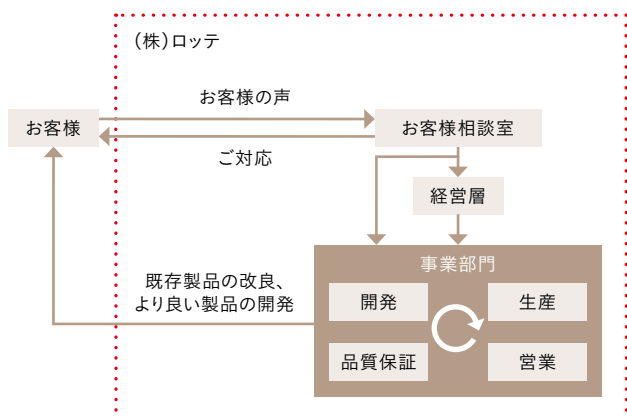
そこで、表示に対する意識を高め、表示ミスを削減することを目的に、品質保証部が主体となり、生産現場に従事する従業員に対して、勉強会を開催しています。2018年度は、(株)ロッテの工場から延べ615人が参加しました。勉強会では、食品表示の基礎知識や他社で生じた違反事例などを具体例とともに分かりやすく説明しました。さらに、万が一、違反した際のお客様への健康被害や罰則などのリスクについても説明し、食品表示の重要性について理解を深めました。受講者からは、「アレレルゲンに対する意識が向上し、これまで以上に慎重に生産に従事していく」「包材の誤使用がないよう、今まで以上にチェックを行う」などの反響があり、日々の生産現場における管理の重要性を再認識する機会となりました。



お客様とのコミュニケーション

声を活かす仕組み

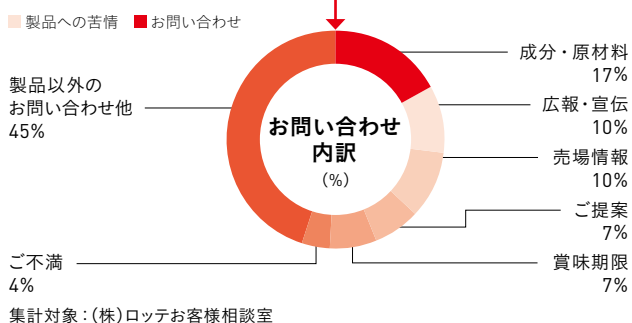
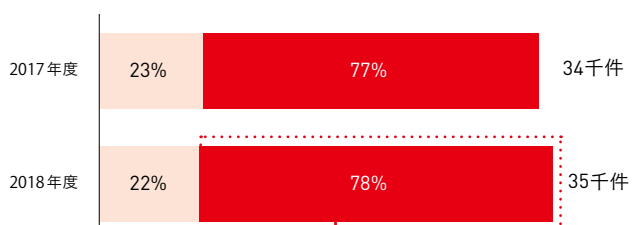
お客様からのお問い合わせやご相談にお応えする窓口として、(株)ロッテではお客様相談室を設置しており、安心して製品やサービスをご利用いただけるよう、真摯な対応と情報提供に努めています。「お客様の声」は、経営層および社内関連部署で共有し、既存製品の改良や新製品の開発などにつながっています。



「お客様の声」件数と内訳

2018年度、(株)ロッテのお客様相談室に寄せられた「お客様の声」は35千件(2017年度は34千件)でした。

「お客様の声」件数



「噛むこと」の普及

中期目標

私たちは、「噛むこと」が健康に与える良い影響について研究し、その成果を発信することで、「噛むこと」を普及させ、人々の豊かな生活に貢献できると考えています。この取り組みの国内の目標として、2023年度までに「噛むこと」を意識して実践している人の割合を現状の22%（2019年5月調査*）から35%以上に拡大すること、さらに2028年度までに50%以上に拡大することを掲げています。

2023年目標



35%以上

2028年目標



50%以上

* 3,000人を対象としたインターネット調査

「噛むこと研究部」の取り組み

私たちは、戦後にチューインガムで創業し、今日まで「噛むこと」についての研究を重ねてきました。現在では、その研究成果発信を専門に行う「噛むこと研究部」を設立して「噛むこと」の普及に取り組んでいます。



また、2018年度より「噛むこと」と全身の健康について研究を行う「噛むこと健康研究会」を発足しました。歯学だけでなく、医学や栄養学、スポーツ学など異分野の研究者が協力して「噛むこと」について多面的に研究する新たな試みです。



噛むこと健康研究会 発足会

社会との連帯

「噛むこと」が健康に与える良い影響について、広く普及させ、人々の豊かな生活に貢献できるよう、社外の様々な団体と連帯して普及活動を行っています。

● 通勤ジム

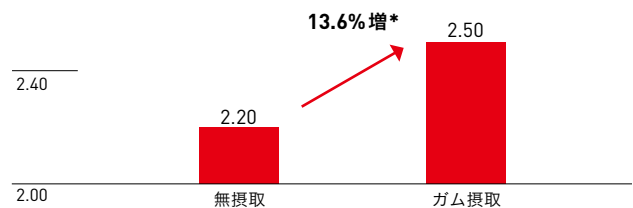
アシックスジャパン(株)と共同で、チューインガムを噛むことと「ウォーキング」を組み合わせた「通勤ジム」プロジェクトを2019



年3月に発表しました。チューインガムを噛みながら歩くと脂肪の消費が増えるという研究結果をもとに、普段の通勤時間を利用した運動として提案しています。

歩行中のガム咀嚼による脂肪消費量の変化

脂肪消費量 (kcal/min)
2.80



* ガム咀嚼条件 vs. 無咀嚼(タブレット)条件 (対応あるt検定、平均、 $p < 0.05$)
出典: Kanno et al. The Journal of Physical Therapy Science 2019.2.1採択、in press

● 噛むことから始める健康セミナー

「咀嚼でのばす健康寿命」「マイナス1歳からはじめるむし歯予防」「歯周病予防」というテーマで、健康セミナーを主催または協賛しています。2018年度は、全国7か所で実施しました。



噛むことから始める「健康セミナー」

● 咀嚼と健康ファミリーフォーラム

「噛むことは健康のはじまり」をテーマに特定非営利活動法人日本咀嚼学会が1995年にスタートさせたフォーラムで、特別協賛しています。フォーラムでは、専門家やオピニオンリーダーの方々など、様々な講師陣を招き、「噛むことの大切さ、噛むことによる健康効果」を多くの方々に発信しています。2018年度は10月に東京都で開催しました。



咀嚼と健康ファミリーフォーラム

● 未来貢献プロジェクト

未来を見据えた様々な施策が必要であるという考えから、政府や自治体、民間企業が行っている取り組みを、新聞紙面、シンポジウム、各種イベントなどを通じて応援している読売新聞社主催のプロジェクトです。「未病」をキーワードに「健康寿命延伸」に向けた各業界の取り組みを紹介するシンポジウムに2016年から協賛しています。



未来貢献プロジェクト

● 健やか親子21

母子の健康水準を向上させるため厚生労働省が2001年から開始した国民運動計画で、2005年から健やか親子21全国大会の開催の支援を行っています。この運動に企業メンバーとして参加し、主に母子伝播予防の観点から、むし歯予防の啓発に取り組んでいます。



健やか親子21全国大会

● ハート・リング運動

「認知症にやさしい社会」を目指して、認知症に関するセミナーやシンポジウムなどの活動を行っているNPO法人です。「噛むチカラ」の面から活動を応援しようと、2014年からNPO法人ハート・リング運動に協賛しており、2018年度は「口から考える認知症」をテーマに、9月に宮城県仙台市内で開催されたフォーラムに協賛しました。



ハート・リング運動

● 健康ガムカムダンベル体操

中高年の方々に健康づくりと「噛むこと」の重要性を伝えることを目的とした健康体操イベントです。イベントがスタートした1999年から毎年協賛しています。2018年度は9月に実施され、250人にご参加いただきました。



健康ガムカムダンベル体操

製品を通じた健康な生活への貢献

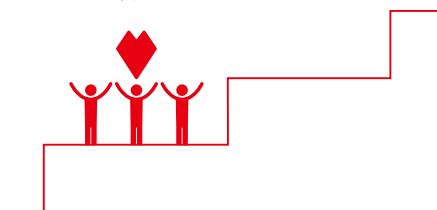
中期目標

私たちは創業以来、新しい健康価値を持つ製品を開発することで、人々の健康な生活に貢献してきました。一例を挙げると1997年発売の「キシリトールガム」は、それまでの常識を覆し、チューインガムで歯を丈夫で健康に保つという新たな価値を提供することで、「むし歯のない社会へ」という社会課題の解決に貢献してきました。

これまで培ってきた知見や技術を活かし、この取り組みを加速させるための目標として、2023年度までに国内で販売する製品を通じて年間3,456万人*以上の人々の健康な生活に貢献すること、さらにその後も拡大させることを掲げています。

2023年目標

3,456万人
以上



* 対象ブランド(キシリトール、機能性表示食品、のど飴、ZERO、乳酸菌ショコラ、ポリフェノールショコラ他)のSCI購入率(期間累積)×日本国民人口

ロツテノベーション

健康意識の向上や少子高齢化、食生活の多様化といった社会変化を背景に、「おいしさ」だけでなく「身体にいい」ものを「手軽に」摂りたいという消費者ニーズが高まっています。私たちは、食における新しい健康価値を持つ製品でこれらのニーズに応え、社会課題の解決に貢献するイノベーション「ロツテノベーション」を積極的に推進しています。

● キシリトール オーラテクトガム

チューインガムの様々な特長に注目し、単なる嗜好品としてだけではなく付加価値を持たせる研究に力を入れてきました。そうした成果の一つとして、歯垢の生成を抑え、歯ぐきを健康に保つユーカリ抽出物を配合した「キシリトール オーラテクトガム」を開発しました。嗜好品としてのチューインガムに、「歯ぐきを健康に保つ」という新たな機能を付加し、人々の豊かな生活に貢献していきたいと考えています。



● 乳酸菌ショコラ

菓子やアイスクリームの特性と健康価値を持つ素材を組み合わせることで、新しい価値を提供することができないか、研究を続けてきました。その結果、生まれたのが「乳酸菌ショコラ」です。乳酸菌をチョコレートで包み、生きたまま安定的に保つロツテ独自の製法により、時間や場所を選ばず気軽に食べることができます。これによって、乳酸菌を「生きたままいつでもどこでも摂れる」という新しい価値を社会に提供することができました。



コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

食に関する文化や価値観は、国や地域だけでなく世代によっても異なります。グローバルに事業を展開する私たちは、地域社会や国際社会の一員として、多様な文化や価値観を尊重し、地域の持続的な発展に寄与するとともに、将来世代への食育活動にも取り組んでいきます。

被災地支援

平成30年7月豪雨

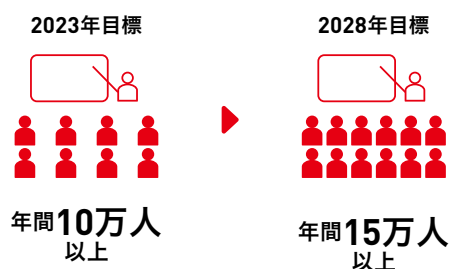
(株)ロッテより、行政指定先にお菓子を合計11,840個および「ヒヤロン」を合計480個お届けしました。また、(株)千葉ロッテマリーンズより、日本赤十字社を通じて7月16日の試合前に行った募金活動でファンの皆様からお預かりした45万9,296円と義捐金100万円を寄付いたしました。

(株)ロッテの親会社である(株)ロッテホールディングスより、日本赤十字社を通じて義捐金2,000万円を寄付いたしました。

食育

中期目標

食は健康の源と考え、正しい食に関する知識や理解を深める食育活動に取り組んでいます。食育活動の目標として、2023年度までに食育受講者を年間10万人以上に、さらに2028年度までに年間15万人以上に拡大することを掲げています。



食育活動

工場見学や手作り体験教室など、様々な機会を通じて食育活動を実施しています。

● 工場見学

(株)ロッテの浦和工場と狭山工場では、工場見学を受け入れており、2018年度は36,030人にお越しいただきました。工場見学では、食の安全・安心についての取り組み現場を実際に見学していただくとともに、環境への取り組みなどをご説明しています。

工場見学者数

2017年度	31,655人
2018年度	36,030人

集計対象：(株)ロッテ浦和工場および狭山工場



工場見学の様子

● 手作り体験教室

(株)ロッテでは、行政やお得意先と協力して手作り体験教室やセミナーを実施しています。チューインガムやチョコレートを中心に、原材料や製造方法、健康に関する知識を楽しく学ぶとともに、手作りすることで親しみを持ってもらえるよう企画・運営しています。2018年度は、合計で2,184人にご参加いただきました。

手作り体験教室参加者数

2017年度	3,826人
2018年度	2,184人

集計対象：(株)ロッテ



手作り体験教室の様子

国内子会社の取り組み

(株)メリーチョコレートカンパニー

2009年よりメリー桜プロジェクトを行っています。当プロジェクトは、日本のメーカーとして国内の小学校で、子供たちと一緒に桜の植樹を行う活動で、2018年度は愛知県名古屋市長見付小学校、熊本県相良村立相良北小学校と相良南小学校の計3校で植樹を行いました。

また、2009年よりクリスマスシーズンに児童養護施設の子供たちにチョコレートをプレゼントしており、2018年度は61施設に寄付を行いました。



植樹の様子

(株)千葉ロッテマリーンズ

日本財団およびNPO法人海さくらと共同でLTO (LEADS TO THE OCEAN 海につづくプロジェクト)を2018年より実施しています。LTOは、海に流れる



ゴミを減らすべく街のゴミ拾い活動を行い、海や自然環境への意識を高め、次世代に美しい自然を残すためのプロジェクトです。2018年度は、試合後にファンの皆様とZOZOマリンスタジアム周辺のゴミ拾い活動を16回行いました。



LTO参加者と記念撮影

海外子会社の取り組み

ロッテウェデル(ポーランド)

ロッテウェデルでは歴史的に価値のある本社社屋の外観を保存する活動を行っています。本社社屋は、ポーランドの首都ワルシャワにあり、1927～1931年にかけて建設され、第二次世界大戦の混乱を経てなお建設当時の姿を保っており、当時のワルシャワの建築を現代に伝える重要な産業遺産に指定されています。この社屋の外観を保つため、2007～2010年にかけて外壁の清掃を行ったほか、増改築などを実施する際は、現地・ワルシャワ市の法令に従い、適宜必要な許可を得ながら進めています。



本社社屋

タイロッテ

タイロッテでは歯の健康をサポートする活動を行っています。歯の健康に関する知識がまだ十分に普及していないタイ北部の山間部において、歯科医による無料検診や、正しい歯磨きの指導、キシリトールの効用の普及活動などを行っています。2018年度は3月に小学生300人を対象に実施しました。



タイでの無料歯科検診

ロッテベトナム

ロッテベトナムでも歯の健康をサポートする活動を行っています。ハノイとホーチミンの大学で現地の歯科医師会と

協力し、無料の歯科検診や、キシリトールの効用の普及活動などを行っています。

また、日本とベトナムの交流を支援する活動にも協賛しています。2018年度は12月に開催された日越国交樹立45周年記念のサッカーユースカップに協賛しました。



ベトナムでの無料歯科検診

ロッテインドネシア

ロッテインドネシアでは2016年より、現地の母の日(12月22日)に親子の絆を深めてもらうことを目的に活動しています。2018年度はジャカルタ近郊の小学校で、「チョコパイ」5万個とメッセージカードを配布し、お母さんへ感謝を伝えるきっかけづくりを行いました。

また、2018年7月にインドネシアのロンボク島で大きな地震が発生した際には、被災地に「チョコパイ」をお届けしました。



ジャカルタ近郊の小学校にて



ロンボク島にチョコパイをお届け

サステナビリティ活動の推進

サステナビリティ方針

2018年4月18日 制定

私たちは、企業理念の実践を通じて企業価値の向上を目指すとともに、持続可能な社会の実現に貢献します。

1. 企業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。

私たちは、人々が心身ともに健康であり続けられる社会の実現に向けて積極的に取り組み、企業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。

2. 安全・安心を徹底します。

私たちは、製品・サービスの安全・安心を徹底し、その上で「おいしさ」、「たのしさ」、「やすらぎ」を提供することで、社会の豊かさの向上に貢献します。

3. 環境負荷の低減に貢献します。

私たちは、自然の恩恵を受けて成長し、地球の一員として成り立っていることをよく理解し、企業活動を通じて低炭素社会や循環型社会の実現に貢献します。

4. 従業員が能力を最大限に発揮できる職場環境を目指します。

私たちは、従業員一人ひとりの多様な個性や働き方を尊重し、ライフ・ワーク・バランスの実現に取り組み、個々の能力を最大限に発揮できる環境を目指します。

5. バリューチェーン全体で持続可能な社会の実現に向けて取り組みます。

私たちは、持続可能な社会の実現のために、ステークホルダーの皆様と協力し、バリューチェーン全体で取り組みます。

6. 対話を通じて社会からの信頼を確立します。

私たちは、あらゆる法令、規程を遵守し、人権を尊重するとともに、高い倫理観に則った誠実かつ公正な企業活動を遂行します。
私たちは、ステークホルダーの皆様との健全かつ正常な関係を構築するとともに、公正な競争、企業情報の適切な開示等、社会の一員としての責任を果たします。

社外との対話

サステナビリティの活動については、社外の声に傾聴しながら進めています。定期的に社外有識者とのダイアログを行い、いただいたご意見を活動に反映しています。また、社会的責任に関する国際ガイダンス規格であるISO26000を活用するとともに、SDGs(持続可能な開発目標)をはじめとする国際的なイニシアチブを踏まえ取り組みを推進しています。情報開示については、GRI(Global Reporting Initiative)やSASB(米国サステナビリティ会計基準審議会)を参考にしながら、ステークホルダーの皆様との対話に資するよう開示内容の拡充に努めています。

従業員への啓発

サステナビリティの活動を推進するためには、その担い手である従業員が考え方を十分に理解する必要があります。そこで、様々なアプローチで啓発活動を行っています。

● 社内報の活用

(株)ロッテで毎月発行している社内報で、マテリアリティやESG中期目標について解説する記事を掲載しています。また、2019年5月からは、社内報のWEB化に伴い、よりタイムリーな情報発信を行っています。

● 人事部門主催の研修を通じた啓発

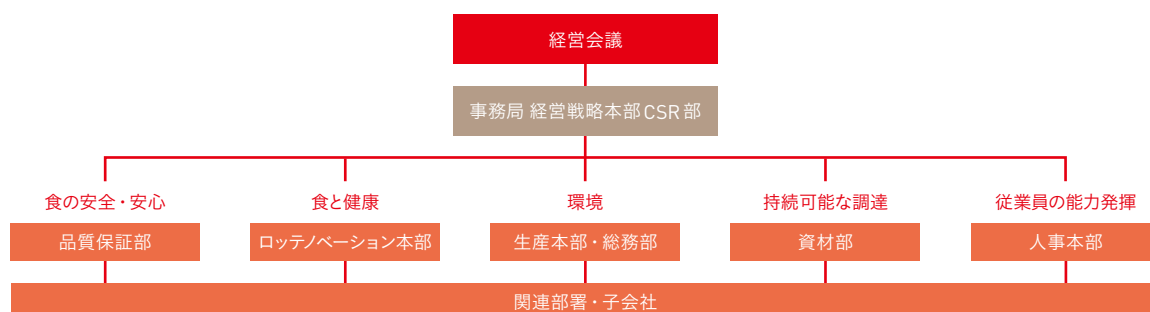
人事部門が主催する各種研修の中で、サステナビリティに関する内容を組み込んでいます。2018年度は、シニアマネージャーを対象に実施したワークショップで、サステナビリティに関する知識や(株)ロッテの考え方について説明を行いました。また、2019年度より社員意識調査の管理職向けフィードバックの際に、サステナビリティについても説明する予定です。

● ESG勉強会の開催

(株)ロッテ経営戦略本部CSR部が主催し、マテリアリティに沿ったテーマで、社外の有識者による社内勉強会を開催しています。また、勉強会の内容は社内のイントラネットに掲示し、参加できなかった従業員とも内容を共有しています。2018年度は、「食品ロス」「ダイバーシティ」「食品表示」をテーマに勉強会を開催しました。

サステナビリティ活動推進体制

(株)ロッテ経営戦略本部CSR部が事務局となり関連部署と連携して、(株)ロッテグループ全体のサステナビリティ活動を推進しています。また、(株)ロッテの経営会議では、サステナビリティに関する重要な方針、マテリアリティ、中期目標の検討および進捗確認などを行っています。



ロッテのサステナビリティ取り組み体系

ESG	ISO26000 7つの中核主題	主要な課題	当該レポートでの報告事項	マテリアリティ	
G	組織統治	コーポレート・ガバナンス (P22)	コーポレート・ガバナンス 他		
		リスクマネジメント (P22)	危機管理体制 大規模災害への対策		
S	人権	従業員に対する取り組み (P23)	研修 相談窓口の設置		
		事業における人権配慮 (P23)	サプライチェーンにおける人権侵害への加担回避 研究における人権配慮		
	労働慣行	ダイバーシティ (P24)	女性活躍推進 障がい者雇用	従業員の 能力発揮	
		ライフ・ワーク・バランス (P25)	労働時間削減		
		従業員エンゲージメント (P26)	社員意識調査		
		人材育成 (P26)	人材育成プログラム キャリアプランを考える (自己申告制度)		
		健康経営 (P27)	健康経営優良法人2019～ホワイト500～に認定		
		労働安全衛生 (P27)	労働安全衛生体制 安全監査・点検の実施		
	公正な事業慣行	カカオ豆の持続可能な調達 (P36)	フェアカカオプロジェクト 社会との連帯 他	持続可能 な調達	
		パーム油の持続可能な調達 (P38)	パーム油の調達実績 社会との連帯		
		紙の持続可能な調達 (P38)	紙の調達実績		
		サプライヤーとの取り組み (P38)	価値観の共有 品質に関する取り組み		
		コンプライアンス (P39)	コンプライアンス研修 内部通報制度 情報セキュリティ 他		
	消費者課題	食の安全・安心 (P40)	新品質保証システム「LOTTE ADVANCE」の導入 品質保証推進体制 他	食の安全・ 安心	
		お客様とのコミュニケーション (P42)	声を活かす仕組み 「お客様の声」件数と内訳		
		「噛むこと」の普及 (P43)	「噛むこと研究部」の取り組み 社会との連帯	食と健康	
		製品を通じた健康な生活への貢献 (P45)	ロッテノベーション		
	コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展	食育 (P46)	食育活動 (工場見学、手作り体験教室)		
		被災地支援 (P46)	平成30年7月豪雨		
		国内子会社の取り組み (P47)	(株)メリーチョコレートカムパニー (株)千葉ロッテマリーンズ		
		海外子会社の取り組み (P48)	ロッテウェデル (ポーランド) タイロッテ ロッテベトナム ロッテインドネシア		
E	環境	CO ₂ 排出量の削減 (P30)	CO ₂ 排出量実績 エネルギー投入量実績 再生可能エネルギーの導入 物流における取り組み	環境	
		廃棄物削減とリサイクル (P32)	廃棄物の発生量とリサイクル率実績		
		食品ロス削減 (P33)	食品ロス発生量実績 フードバンク		
		水資源 (P33)	水使用量実績 水リスクについて		
		原材料 (P34)	原材料調達量実績 包材の環境配慮		
		環境マネジメント (P35)	環境活動推進体制 他		

●：主に関連するSDGs ○：関連するSDGs

SDGsの17目標との関連性

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 健康と長寿を促す	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を推進する	6 安全な水とトイレを世界中に	7 持続可能なエネルギーを	8 働きがいも、経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国々の間での格差をなくそう	11 持続可能な都市と人間住み	12 つくばない、減らそう、もう一度使おう	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正な世界を築こう	17 パートナーシップで目標を達成しよう
															●	
										●						●
				○			●									
○							●		○							
				●			●		○							
				○			●									
			○	○			●		○							
		○					●									
		○					●									
○	○		○	○			●	○	○		●					●
○	○		○	○			●	○	○		●	●		○		●
							●	○			●	●		○		●
○	○		○	○			○	○	○		○	○		○	●	●
				○			○		○						●	
	●	○						○							○	
							○	○			○					
		●					○	●								○
		●					○	●								
○	○		○												○	●
																○
																○
						○		○		○	○	●				
								○			●		○			
					●						●					
							○	○			●	○	○	○	○	
					○	○				○	○	○	○	○	○	

CO₂排出量の第三者保証

当該レポートP30に記載した2018年度のエネルギー起源CO₂排出量(✓の付されたデータ)については、デロイトトーマツサステナビリティ株式会社による独立した第三者保証を受けています。



独立した第三者保証報告書

2019年8月23日

株式会社ロッテ

代表取締役 社長執行役員 牛嶋 栄一殿

デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社
東京都千代田区丸の内三丁目2番3号

代表取締役

杉山 雅彦

デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社 (以下「当社」という。)は、株式会社ロッテ (以下「会社」という。)が作成した「株式会社ロッテ サステナビリティレポート 2019」(以下「報告書」という。)に記載されている ✓ の付された 2018 年度のエネルギー起源 CO₂ 排出量 (スコープ 1、スコープ 2) (以下「CO₂ 情報」という。)について、限定的保証業務を実施した。

会社の責任

会社は、会社が採用した算定及び報告の基準(報告書のCO₂情報に注記)に準拠してCO₂情報を作成する責任を負っている。また、CO₂情報の算定は、排出係数と数値データの決定に利用される科学的知識が不完全である等の理由により、固有の不確実性の影響下にある。

当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく、国際会計士倫理基準審議会の「職業会計士の倫理規程」が定める独立性及びその他の要件を遵守した。また、当社は、国際品質管理基準第1号「財務諸表の監査及びレビュー並びにその他の保証及び関連サービス業務を行う事務所の品質管理」に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

当社の責任

当社の責任は、当社が実施した手続及び当社が入手した証拠に基づいて、CO₂情報に対する限定的保証の結論を表明することにある。当社は、「国際保証業務基準 3000 過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(国際監査・保証基準審議会)、「国際保証業務基準 3410 温室効果ガス報告に対する保証業務」(国際監査・保証基準審議会)及び「サステナビリティ情報審査実務指針」(サステナビリティ情報審査協会)に準拠して、限定的保証業務を実施した。

当社が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、質問、プロセスの観察、文書の閲覧、分析的手続、算定方法と報告方針の適切性の検討、報告書の基礎となる記録との照合又は調整、及び以下を含んでいる。

- ・ 会社の見積り方法が、適切であり、一貫して適用されていたかどうかを評価した。ただし、手続には見積の基礎となったデータのテスト又は見積の再実施を含めていない。
- ・ データの網羅性、データ収集方法、原始データ及び現場に適用される仮定を評価するため、事業所の現地調査を実施した。

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務に対する手続と比べて、その種類と実施時期が異なり、その実施範囲は狭い。その結果、当社が実施した限定的保証業務で得た保証水準は、合理的保証業務を実施したとすれば得られたであろう保証水準ほどには高くない。

限定的保証の結論

当社が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、CO₂情報が、会社が採用した算定及び報告の基準に準拠して作成されていないと信じさせる事実はすべての重要な点において認められなかった。

以上

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited

会社情報

商号	株式会社ロッテ
本社所在地	東京都新宿区西新宿3-20-1
創業	1948年6月
資本金	2億1,700万円
決算期	3月31日
従業員数	2,361名 6,396名（海外拠点・グループ会社含む） （2019年3月31日現在）

WEBサイトのご案内

WEBサイトにも各種情報を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

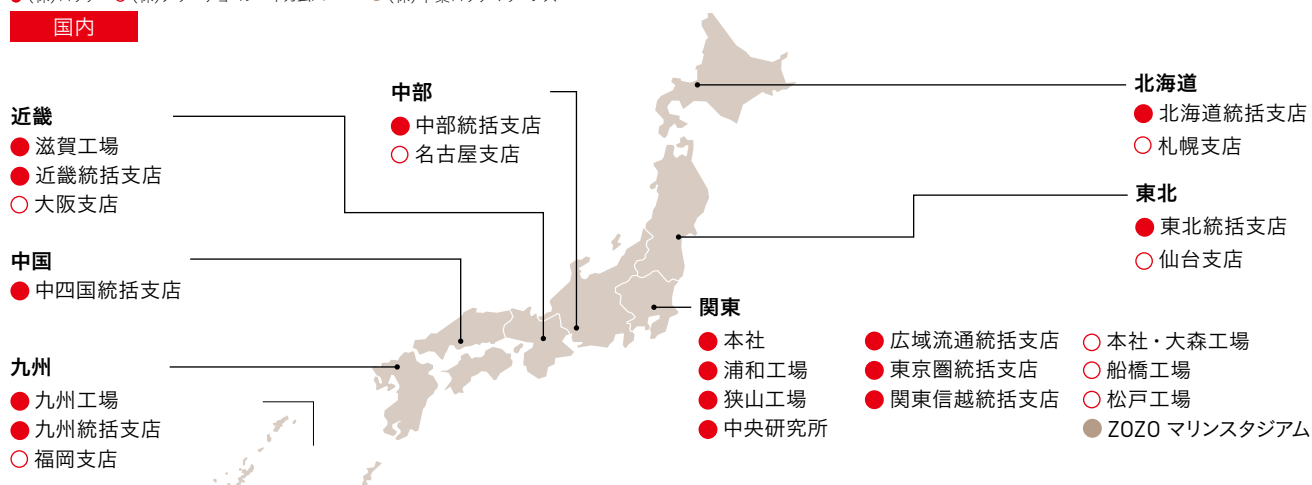


「サステナビリティ」

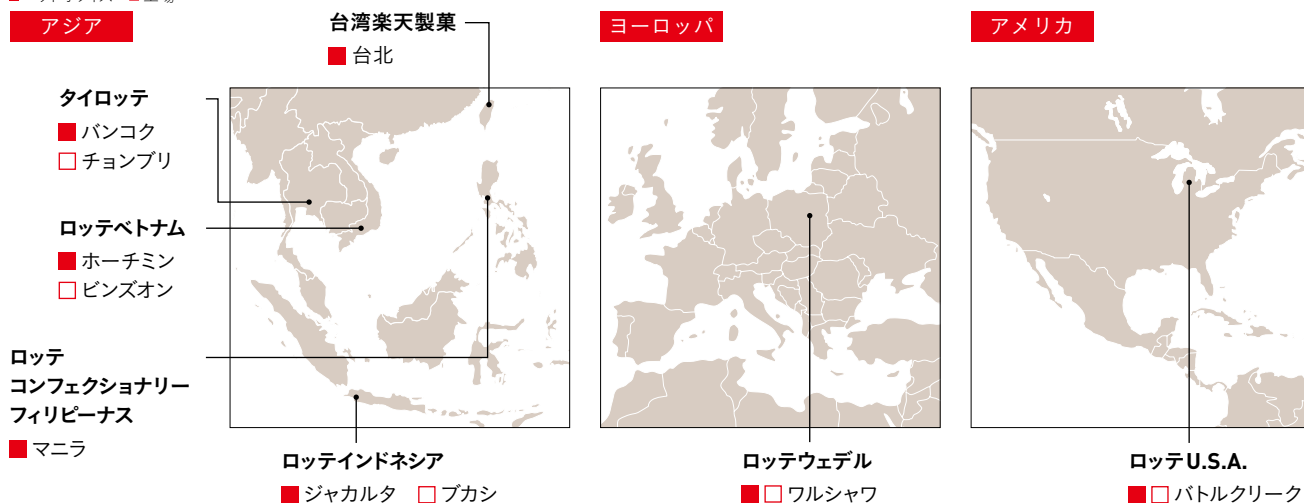
<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/>

事業拠点

● (株)ロッテ ○ (株)メリーチョコレートカムパニー ● (株)千葉ロッテマリーンズ



■ ヘッドオフィス □ 工場



お口の恋人

LOTTE

株式会社ロッテ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-20-1

<https://www.lotte.co.jp/>

Printed in Japan

